

41962

教科書文庫

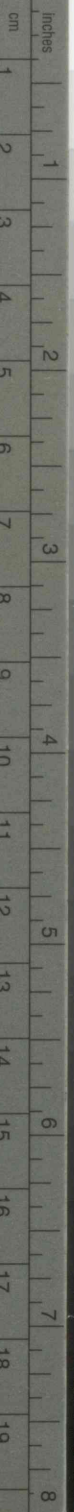
4
820
41-1937
2000 22391

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



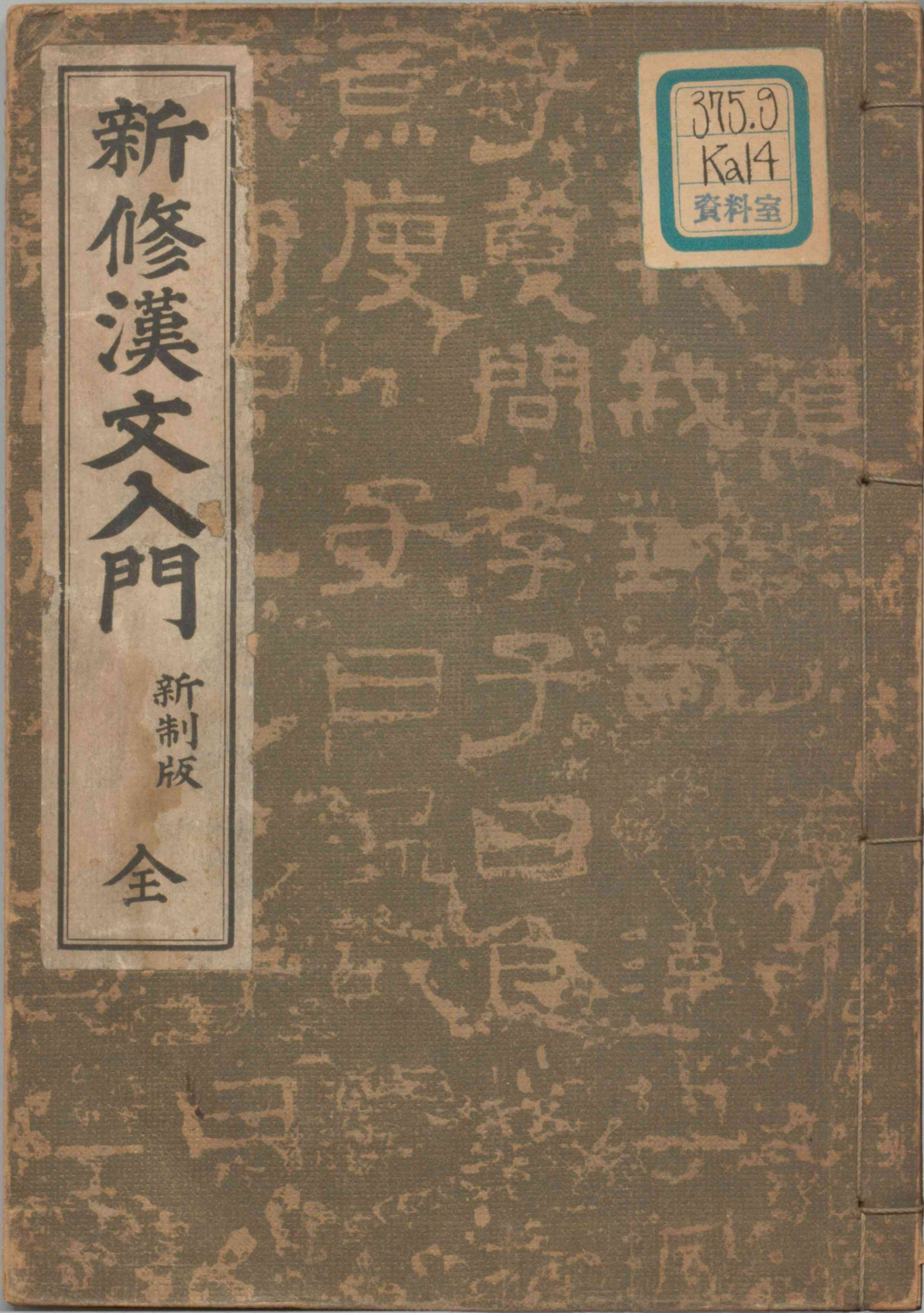
Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.9  
Ka14  
資料室



新修漢文入門  
新制版  
全



資料室  
 日四十月二十年二十和昭  
 濟定檢省部文  
 用科文漢語國校學中

3759  
 Ka14

簡野道明編



新修漢文入門

新制版

廣島大學  
 言語部

東京

株式會社

明治書院

新修漢文入門 (新制版) 目次

入門篇

- 一 大日本帝國
- 二 東京奠都詔
- 三 句 例一
- 四 句 例二
- 五 明治天皇
- 六 法庫門營中作
- 七 句 例三
- 八 菅公忠愛
- 九 至死不變

乃木希典  
 青山延子  
 角田簡

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二

目次

一〇	孝之始終	孝經	原	善	三三
一一	古嗣篤孝	文德實錄			三三
一二	言語飲食				三四
一三	格言二則				三五
一四	亢顏談經				三五
一五	句例四				三七
一六	靜心以書				三九
一七	文字構造例				三九
一八	讀書之樂	鹽谷世弘			三三
一九	除日講起	原善			三三
二〇	立志	賴襄			三三
二一	十有三春秋	賴襄			三四
二二	復有十四歲乎	賴襄			三四

自修文

大阪(依田百川)

二三	雪案螢窗	日記故事	岡本監輔	六六
二四	堅忍不拔			六六
二五	言志二首	一 偶感 二 欲出鄉題壁	西鄉隆盛 釋月性	六六 六六
二六	言志錄抄			六六
<b>本篇</b>				
二七	天壤無窮	日本書紀	青山延壽	三三
二八	伊勢神宮			三三
二九	句例五	自修文 (一)儉德不文 (二)明治神宮		三五
三〇	上杉鷹山			三五

一	孝百行之本	重野安釋	三
二	敬師	安井衡	三
三一	崑山至孝	久阪通武	三
三二	蘭丸誠怒	大槻清崇	三
三三	謙信義勇	賴襄	三
一	所爭在弓箭	賴襄	三
二	橫槩賦詩	青山延子	三
三	失吾好敵手	賴襄	三
三四	高虎公直	木內倫	三
三五	延喜天曆之治	青山延子	三
一	寒夜脫御衣	岡松辰	三
二	天下皆稱寬	青山延子	三
三六	煖酒燒紅葉	岡松辰	三
三七	道灌歌學	岡松辰	三

自修文

朗詠

三八	詠史二首	大槻清崇	三
三九	築江戸城	重野安釋	三
四〇	東京	大槻修二	三
四一	宮城	依田百川	三
四二	大楠公	德川齊昭	三
四三	東海道第一之勝	齋藤馨	三
四四	泝天龍川	林長孺	三
四五	守重巡視蝦夷	鹽谷時敏	三
四六	松前城下作	長尾景翰	三
四七	閒宮窺滿洲	齋藤正謙	三
<p>自修文 始至歐洲(日本國志)</p>			
四八	重矩寬厚	青山延子	三
四九	咬菜軒	中村和	三

五〇 慎思錄抄

具原篤信

一 以忘初爲誠

二 勤儉忘奢

三 用財法

五一 詔勸農蠶

德川光圀

五二 憫農

李紳

自修文

富強 (山縣大貳)

五三 甘藷先生

原善

五四 兼山遠慮

原善

五五 論語抄

岡本監輔

五六 松下聯璧

伊藤博文

五七 松門受教

藤森大雅

五八 取友之道

藤森大雅

自修文

遊櫻祠 (廣瀬謙)

五九 橋本左内

重野安釋

六〇 宣長明邦典

重野安釋

六一 教育勅語

重野安釋

附表 部首名稱並用例

六 六 三



勝之一第道海東三四

富士富望上橋川士富



豊饒一音「ホウ」  
「セウ」ユカカニ  
多シ。

峻嶒富嶽聳千秋赫灼  
朝暉照八沙休說區々  
風物美地靈人傑是  
神州

大將伯爵山本賢兄一榮

希典

峻シラカ嶒シラカ富トヨク嶽トヨク聳トヨク千チ秋シユ赫ケツ灼ケツ朝アサ暉ヒ照ス八ヤチ沙サ休ユ說クワ區クワ々クワ  
地チ靈レイ人ジン傑ケツ是シ神シ州シュウ  
風フウ物モノ美ミ地チ靈レイ人ジン傑ケツ是シ神シ州シュウ

大將伯爵山本賢兄一榮 希典

# 新修漢文入門 (新制版)

## 入門篇

### 一 大日本帝國

大日本帝國ハ、亞細亞洲ノ東端ニ在リ。氣候溫和ニ、土地肥沃ニシテ、物産豊饒ニ、山水モ亦秀麗ナリ。肇國以來二千五百九十餘年、皇統一系、君ハ仁ニ臣ハ忠ニシテ、國體ノ美ナルコト、宇内ニ冠絶セリ。

**漢文** 氣候溫和、土地肥沃、物産豊饒、山水亦秀麗

明治元年七月十七日、江戸ヲ東京ト稱スル勅語。  
 機一、要ナリ。萬機ハヨロヅノ重要ナル政。綏撫一音「スキ」  
 「ブ」ヤスンジナデ愛スル。大鎮一、大ナルオサヘ。  
 輻湊一音「フクソウ」一所ニアツマル。

### 二 東京奠都詔

朕今萬機ヲ親裁シ、億兆ヲ綏撫ス。江戸ハ東國第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地ナリ。宜シク親臨以テ、ソノ政ヲ視ルベシ。因リテ自今江戸ヲ稱シテ東京トセン。是レ朕ノ海内一家、東西同視スル所以ナリ。衆庶コノ意ヲ體セヨ。(太政官日誌)

漢文 江戸、東國第一、大鎮、四方輻湊地。

### 三 句例一

「ク」キハ送假名  
 「ハ」ハ讀點  
 「ハ」ハ句點  
 文中ニテ文意ノ切レル處ヲ句トイヒ、  
 施シ、句中ニテ讀ミ聲ノ一寸止マル處ヲ讀トイヒ、  
 ス、讀ハ逗(ト)ニ通ズ。故ニ音トウ讀本讀書ナドノトキハ音「トク」  
 「シ」「ハ」「ナリ」ニシテハ送假名(闊濶)

花開。(漢文) 花開ク。(國文)

鳥啼。(漢文) 鳥啼ク。(國文)

花開、鳥啼。(漢文) 花開キ、鳥啼ク。(國文)

梅花開、黃鳥啼。(漢文) 梅花開キ、黃鳥啼ク。(國文)

山高。(漢文) 山高シ。(國文)

湖闊。(漢文) 湖闊シ。(國文)

山高、湖闊。(漢文) 山高ク、湖闊シ。(國文)

富士山高、琵琶湖闊。(漢文)

富士山ハ高く、琵琶湖ハ闊シ。(國文)



強一強ニ同ジ。

身體強健（漢文） 身體強健ナリ（國文）

品行端正（漢文） 品行端正ナリ（國文）

身體強健、品行端正（漢文）

身體強健ニシテ、品行端正ナリ（國文）

忠孝者、人道之根本、臣子之大節也（漢文）

忠孝ハ、人道ノ根本ニシテ、臣子ノ大節ナリ（國文）

〔者〕  
〔之〕  
〔也〕

練習

天晴 氣清 天晴、氣清 國富、兵強 山高、月

小 大日本、神國也 楠木正成者、忠臣也

孝者、百行之本也 德者本也、財者末也

四句例二

兄ハ讀レ書ヲ 兄ハ書ヲ讀ム。

弟ハ作レ文ヲ 弟ハ文ヲ作ル。

兄ハ讀レ書ヲ、弟ハ作レ文ヲ。

兄ハ書ヲ讀ミ、弟ハ文ヲ作ル。

廣ニ公益、開ニ世務。

公益ヲ廣メ、世務ヲ開ク。

啓シ發シ、智能、成ス就ス德器。

智能ヲ啓發シ、德器ヲ成就ス。

「ハ」「レ」「コ」ハ返  
點。  
「レ」ヲレ點又ハ  
カリガネ點ト  
イヒ、「レ」「コ」ヲ  
一二點トイフ。

〔不〕  
不待人、  
ヲ二ツ以上連  
用スル時ハ最  
下ノ、  
次ニ返リ讀ム。

歲月不待人。歲月人ヲ待タズ。

練習 學畫 習字 摘桑 耕田 捕蝶 折花  
學畫 習字 摘桑 耕田 捕蝶 折花  
習字 修學 習業 春觀花 秋賞月 好學問 嗜  
武藝 一寸光陰不可輕

彼登山。彼ハ山ニ登ル。

我泛水。我ハ水ニ泛ブ。

彼登山。我泛水。

彼ハ山ニ登リ、我ハ水ニ泛ブ。

重國憲、遵國法。

國憲ヲ重シ、國法ニ遵フ。

良藥苦於口。良藥ハ口ニ苦シ。

練習 在家 騎馬 遊公園 觀櫻花 入中學  
學漢文 遊公園 觀櫻花 入中學 學漢文  
改過遷善 乘船渡海 居治不忘亂 一日之  
計在朝、一年之計在春、一生之計在少壯之時。

五 明治天皇

明治天皇、至仁至聖、敬神愛民、勵精圖治、在  
位四十六年、國運之昌盛、前古無比。

圖 一 天皇又  
ハ高貴ノ方ノ  
言行ニハ、  
敬語ヲ添  
フ。

乃木希典一  
大正元年薨  
六十四年  
法庫門一  
滿洲國奉天省  
在



乃木希典書

六 法庫門營中作

乃木希典

東西南北幾山河。  
春夏秋冬月又花。  
征戰歲餘人馬老。  
壯心尙是不思家。

七 句例三

觀<sub>ル</sub>花<sub>ヲ</sub>嵐山<sub>ニ</sub>。花ヲ嵐山ニ觀ル。

賞<sub>ス</sub>月<sub>ヲ</sub>琵琶湖<sub>ニ</sub>。月ヲ琵琶湖ニ賞ス。

校長<sub>ト</sub>授<sub>ル</sub>與<sub>ス</sub>卒業證書<sub>ヲ</sub>於<sub>テ</sub>生徒<sub>ニ</sub>。

校長卒業證書ヲ生徒ニ授與ス。

源賴朝<sub>ト</sub>開<sub>ク</sub>幕府<sub>ヲ</sub>於<sub>テ</sub>鎌倉<sub>ニ</sub>。

源賴朝幕府ヲ鎌倉ニ開ク。

明治五年<sub>ニ</sub>詔<sub>シテ</sub>全國<sub>ニ</sub>募<sub>ル</sub>兵<sub>ヲ</sub>頒布<sub>シ</sub>徵兵令<sub>ヲ</sub>於<sub>テ</sub>天下<sub>ニ</sub>。

明治五年全國ニ詔シテ兵ヲ募リ、徵兵令ヲ天下ニ

頒布シタマフ。

〔于〕

頒布一音「ハン」  
「フ」法令ナドヲ  
ワカチンク。

〔於〕 青山延于一拙齋ト號ス。水戸ノ人。天保十四年(五〇)卒ス。年六十八。  
菅原道真一清和陽成光孝宇多醍醐ノ五朝ニ事フ。宇多天皇ノ時、右大臣ニ至リ、醍醐天皇ノ時、藤原時平ノ讒ニ遇ヒ、太宰權帥ニ貶セラレ、延喜三年(五三)薨ズ。年五十九。  
〔所〕 替一菅、テイ、廢ナリ。獻替ハ可ヲ獻ジ、否ヲ替ツルナリ。

金貴於銀。金ハ銀ヨリモ貴シ。  
父母之恩、高於山、深於海。

父母ノ恩ハ、山ヨリモ高く、海ヨリモ深シ。

練習

學洋學於蘭人。忠言逆於耳、利於行。立身行道、揚名於後世。孝于父母、友于兄弟、夫婦相和、朋友相信。生無益于世者、死不足惜。人情薄於紙。健康之福、大於財寶。

八 菅公忠愛

青山延于

菅原道真、歷事五朝、尤爲宇多天皇所親任。

帝嘗好游獵。道真諫止之。隨事獻替。多所匡

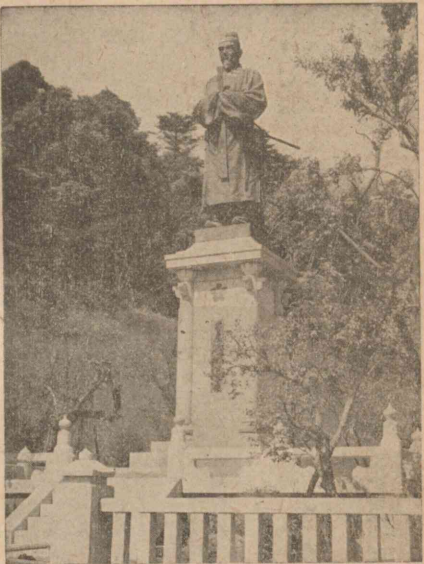
救。及被配筑紫、閉

門不出。託文墨、自

遣。雖謫居無聊、未

嘗忘忠愛之意。重

陽後一日、賦詩曰、



菅原道真像

去年、今夜侍清涼。秋思、詩篇獨斷腸。

恩賜御衣、今在此。捧持、每日拜餘香。

聞者莫不感歎。(皇朝史略)

匡救一正シス  
クフ。  
〔雖〕 謫一菅「ダク」罪  
ナリ。謫居ハ配  
所。  
無聊一聊ハ頼  
ナリ。心ニ頼ム  
モノナクシテ  
サビシ。  
〔未嘗〕 重陽一五節句  
ノ一陰曆九月  
九日ナリ。ココ  
ハ醍醐天皇ノ  
延喜元年(五六)  
清涼一清涼殿  
餘香一衣ニタ  
キコメタル、ウ  
ツリガ聖恩ニ  
比ス。  
菅公秋思ノ詩  
ニ君富春秋臣

漸老恩無涯岸  
報猶遲下宇  
多帝歡感アリ  
御衣ヲ賜フ

〔莫ナ〕

皇朝史略一十  
二卷青山延子  
著ス

角田簡一豊後  
岡ノ人安政二  
年(三二五)卒ス年  
七十二

中江藤樹一近  
江聖人ト稱セ  
ラル慶安元年  
(三三〇)卒ス年四  
十一  
病一疾ガ危篤  
ナルナリ  
「カギ」トイフ  
語ヲ一括スル  
ニ用フ

〔練習〕

- (一) 爲宇多天皇所親任 爲宇多天皇所親任
- 莫不感歎 皆感歎
- (二) 獻替 獻可替否 忠愛 忠君愛國

九 至死不變

角田 簡

中江藤樹恆患痰咳。每疾累數枕而臥。從瘧去之。疾病時其母問之。藤樹懼母之憂。力疾自去。一枕曰。少瘳。母曰。然則不日必起。悅而出。藤樹乃死矣。川田琴卿歎曰。先生之於孝。

〔然則シカラズハチ〕

〔乃ハチナ〕

〔矣〕

川田琴卿一雄  
琴ト號ス。江戸  
ノ人。

續近世叢語一  
八卷角田簡著  
ス。

孝經一。一卷孔  
子ガ門人ノ會  
參ト孝ヲ論ゼ  
シ語ヲ錄ゼシ  
書。

〔不敢…〕

文德實錄一六  
國史ノ一。  
山田古嗣一平  
安朝ノ人。仁壽  
三年(五一三)卒ス。  
年五十六。

至死不變。可謂至孝矣。(續近世叢語)

〔練習〕

- 不日 不日 不變 不變

一〇 孝之始終

孝 經

身體髮膚受之父母。不敢毀傷。孝之始也。立身行道。揚名於後世。以顯父母。孝之終也。

二 古嗣篤孝

文德實錄

山田古嗣爲人廉謹而寡言辭。幼歲喪母。敬

書一韓詩外傳ナリ。

沾濡一音「テン」ジユウルホフ。

程明道一名ハ願宋ノ大儒。

〔當「サニ」〕

速一招ナリ。速ニ招ク意アリ。

事從母。天性篤孝。嘗讀書。至於樹欲靜而風不止。子欲養而親不待。流涕不禁。卷帙爲之沾濡。(修改)

一二 言語・飲食

慎言語以養其德。節飲食以養其體。事之至近而所繫至大者。莫過於言語・飲食。(程明道) 人最當慎口。口之職兼二用。出言語。納飲食。是也不慎於言語。足以速禍。不慎於飲食。足

以致病。諺云。禍自口出。病自口入。(佐藤坦)

〔練習〕

- (一) 病從口入。禍從口出。(傳玄)
- (二) 救寒無若重裘。止謗莫若自修。(古諺)

一三 格言 二則

○君子欲訥於言而敏於行。(論語)

○無道人之短。無說己之長。(文選)

一四 亢顏談經

原善

〔自「ヨ」〕 自一從ニ同ジ。佐藤坦一齋ト號ス。江戸ノ人。安政六年(三五)一迄卒ス。年八十ハ。傳玄一晉ノ人口銘ヲ作ル。

〔上「中」「下」ハ返點〕 論語一十卷。四書ノ一。

〔無「ナカ」〕 道一「言」ナリ。文選一六十卷。古代ノ詩文集。梁ノ武帝ノ長子蕭統昭明太子撰ス。原善一「念齋」ト號ス。江戸ノ人。

文化三年(四六六)卒。年四十七。貝原益軒一名ハ篤信。筑前ノ人。正徳四年(三三七)卒。年八十

五。

〔將スサニ〕東西一東ハ京都ヲ指シ、西ハ筑前ノ福岡ヲ指ス。喋喋一ヨクシヤベルサマ。冗顔一タカブリタル顔ツキ。冗音一カウ。涵養、須用、敬進。學、則在致知。經一聖人ノ著シタル經書ヲイフ。若一如ニ同ジ。

益軒



像 軒 益 原 貝

貝原益軒、以博學篤行、名于世。嘗居東、將西歸、取路于海上。同船數人、名姓不相知。雜然相向、喋喋相語。中有一

少年、冗顔談經、旁若無人。益軒暗無言、若無能者。既而及船達岸、各告其姓名。鄉里少年乃始知爲益軒。慙愧不自容、遂不陳其名。

涵養須用  
敬進學則  
在致知

書 軒 益 原 貝

鼠竄去。

(修刪) (先哲叢談)

練習 旁一傍 旁若無人 旁若無人 不可思議 不可思議 鼠竄一狐疑 不可思議 旁一元 暗一暗 鄉一卿 陳一陣 喋一蝶

一五句 例 四

我將上京修業。

我將ニ京ニ上リテ業ヲ修メントス。

當惜寸陰勉學。 當ニ寸陰ヲ惜ミテ勉學スベシ。

汝未通漢文、須反復講習。

〔未メイダ〕

〔當ベシニ〕

〔將スサニ〕

暗一音「イン」訓「ツグム」言フコト能ハザルナリ。鼠竄一コソコソトニゲル。竄音「ザン」先哲叢談一八卷。原善著ス。

〔盍ナシ〕  
盍何不

〔宜ベシク〕

〔猶ゴトシ〕

汝未ダ漢文ニ通ゼズンバ、須ラク反復講習スベシ。  
汝盍讀論語。 汝何不讀論語。

汝盍ゾ論語ヲ讀マザル。

學生宜勤勉。 學生ハ宜シク勤勉ナルベシ。

國民慕其君、猶赤子於慈母。

國民ソノ君ヲ慕フコト、猶ホ赤子ノ慈母ニ於ケル  
ガゴトシ。

〔練習〕 大丈夫、當傳芳名於千載。 將西歸、取路于海上。  
性溫順、未嘗與人爭。 須盡忠王室。 病癒多  
忘慎、須常思病苦時。 汝盍祈吾主天下。 兄弟

猶左右之手。

一六 靜心以書

小早川隆景、謂書佐曰、事急矣。宜靜心以作

書。書佐由是無誤寫。

〔自修文〕

火急、作文書、須必先立案、起稿、而後徐更寫。却是成速  
無誤。 (言志後錄)

一七 文字構造例

字ノ左ニアル  
ヲ偏トイヒ、右  
ニアルヲ旁ト

〔卻却〕  
言志後錄一  
卷。佐藤坦著ス。

小早川隆景一  
毛利元就ノ第  
三子。  
書佐一カキヤ  
ク。書記。



イヒ、上ニアル  
ヲ冠トイヒ、下  
ニアルヲ脚(正  
字ハ脚)トイヒ、  
外ニアルヲ構  
トイヒ、又垂ト  
イヒ、遶トイフ。  
リ(立刀)  
斤(ノッ)  
頁(オホガヒ)  
大貝  
大里邑ノ略。  
連火  
口(クニガマ)  
門(カドガマ)  
門(タカカヒ  
ガマ)へ。

一(雁垂)  
一(麻)  
垂  
一(ヤマヒダ  
レ)病垂  
一(延逃)  
走(ソウ)ウネウ  
一(シ)ンネウ  
鹽谷世弘一宕  
陰ト號ス。江戶  
ノ人。慶應三年  
(三五七)卒ス。年五  
十九。  
忠勝一徳川氏  
ニ仕へ、大老ト  
爲ル。  
一(使)  
乙夜一音(イツ  
ヤ)今ノ午後十  
時。  
一(焉)

凡文字構造有偏旁冠脚構垂遶之別。今舉  
其一斑。

- 〔偏〕 亻 (仁信) 冫 (河清) 木 (桐梅) 糸 (紅綠)
- 〔旁〕 冫 (利劍) 斤 (斬斷) 頁 (頭額) 卩 (郡都)
- 〔冠〕 宀 (宇室) 竹 (筍箭) 艸 (花葉) 雨 (雪霜)
- 〔脚〕 心 (忠恕) 灬 (烈照) 皿 (盆盤)
- 〔構〕 口 (國圖) 門 (關關) 門 (關關)
- 〔垂〕 厂 (原厚) 广 (府庫) 疒 (疾病)
- 〔遶〕 廴 (延建) 走 (赴越) 辵 (進道)

乙夜 午後十時

一八 讀書之樂

鹽谷世弘

酒井忠勝好讀書每夕使儒臣侍講限以乙  
夜雖公事繁劇未嘗廢懈每語人曰坐而知  
數萬里之外數千載之上何樂加焉

練習

- (一) 載 侍講 侍讀 未嘗廢懈 未曾休
  - (二) 十干 甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
  - (三) 十二支 子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥
- 辨似 侍一待 講一購 廢一廢 每ー常一恆

昭代記十卷  
鹽谷世弘著ス。

菅得庵一名ハ  
玄同。姫路ノ人。  
寛永五年(三三六)  
卒ス。年四十  
八。  
林羅山一名ハ  
信勝。徳川幕府  
ノ儒官。明曆三  
年(三二七)卒ス。年  
七十五。  
通鑑綱目一五  
十九卷。支那ノ  
歴史。南宋ノ大  
儒朱熹編ス。  
〔何待マシヤシ〕  
〔即チ〕

日本外史一  
十二卷。賴襄著  
ス。

賴襄一山陽ト  
號ス。安藝ノ人。  
天保三年(三四三)  
卒ス。年五十三。  
此ノ文ハ十二  
歳ノ時ノ作。  
〔羣〕  
孔子一孔子ト  
孟子。  
〔亦〕  
〔耳〕  
〔安可不哉〕  
山陽文稿一  
二卷。賴襄著ス。

坐(坐臥)一座(座席)

一九 除日講起

原善



林羅山像

歲暮、菅得庵、謂林羅山曰、余  
未讀通鑑綱目。請先生以明  
春爲余講之。羅山曰、子心誠  
求之、何待來年。即以除日講

起(先哲叢談)

練著

(一) 歲暮 || 歲晚 明春 || 來春 除日 || 除夜

(二) 未讀通鑑綱目 || 未讀日本外史

二〇 立志

賴襄

男兒不學則已。學則當超羣矣。今日之天下、  
猶古昔之天下也。今日之民、猶古昔之民也。  
古之賢聖如孔孟者、亦一男兒耳。吾雖生于  
東海千載之下、生幸爲男兒矣。安可不奮發  
立志、以答國恩、以顯父母哉。  
(修) (山陽文稿)

春秋一歲月。

〔安得シクシヤ〕  
古人一古ノ聖賢ヲイフ。  
青史一歴史ノコト。

大阪之役一元和元年(二七五五)月。  
賴宣一康ノ第十子。紀州藩ノ祖。  
〔與ト〕  
義直一康ノ第九子。尾州藩ノ祖。

二二 十有三春秋。逝者已如水。賴  
天地無始終。人生有生死。  
安得類古人。千載列青史。

又リ雨ハ

二二 復有十四歲乎

賴

襄

大阪之役、徳川賴宣與兄義直、自後軍馳見諸軍、輜重屬途爭進、賴宣曰、是軍既捷、將舍也。已天主煙舉、賴宣咄嗟而進、義直從之。至

天主ト天主閣咄嗟一舌ウチシテ叱ル。  
茶白山一大阪天王寺ノ西南ニ在リ。  
攪涕一手ニテ涙ヲ承クルナリ。攪訓「トル」  
遼遠一ハルカニ遠シ。遼音レウ。  
〔復一乎〕  
首功一敵ノ首ヲ取リシ功。

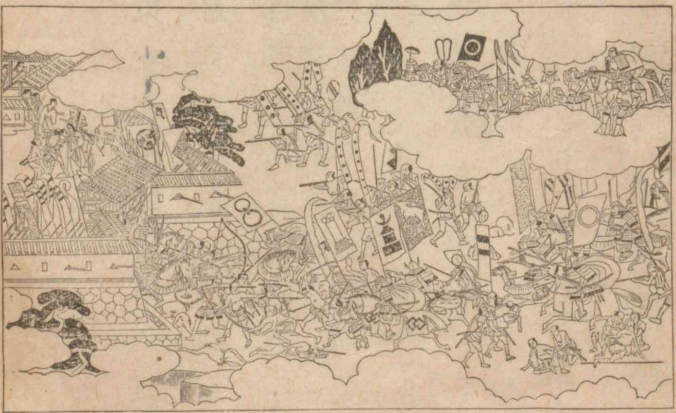
茶白山、則諸將賀者大聚、賴宣攪涕、謂家康曰、大人置兒後軍、使不及事。松平正綱曰、君十四歲矣。前途遼遠、不患不建功。賴宣變色曰、吾復有十四歲乎。家康曰、汝此言、足以當首功也。

(日本外史)

練習

遼遠 || 脩遠

變色



陣ノ夏阪大

二一 十有三春秋 二二 復有十四歲乎

二五

厲一訓「ハゲマ  
ス」

安治川一淀川  
ノ下流。  
殷賑一音「イン  
」シ「サカンニ  
」ギハフ。  
依田百川一學  
海ト號ス。下總  
ノ人。明治四十  
二年卒ス。年七  
十七。

日記故事一七  
卷。明ノ張瑞圖  
校ス。著者ハ未  
ダ詳カナラズ。  
案一凡ナリ。  
晉(音)  
清介一心が潔  
白ニシテ操守  
アルヲ言フ。介

厲聲

自修文

大阪 古稱浪速。津。西南臨海。東北控平野。安治川貫流。其西境。鐵路四通。如蜘蛛網。舟車之所輻湊。運輸至便。市街殷賑。商業繁盛。人口三百五十萬。實爲關西第一。大都。古城址。在市東北。距今三百餘年。豐太閤所築也。  
(依田百川)

雪案螢窗

日記故事

晉孫康少清介。交友不雜。家貧無油。嘗映雪讀書。後官至御史大夫。今人以書案爲雪案。

由此也。  
(修刪)

晉車胤幼恭勤博覽。家貧不常得油。夏月以練囊盛數十螢火。照書讀之。以夜繼日。後官至尚書郎。今人以書窗爲螢窗。由此也。

練習

- (一) 博覽 博聞 夏月 夏月 夏月 雪案螢窗 螢
- (二) 君子憂道不憂貧 (論語)

辨似

不常得油 一常不得油

岡本監輔一韋  
庵ト號ス。阿波

堅忍不拔

岡本監輔

窗(窓)

螢の光、窗の雪  
書讀む月日重ね  
つつ、いつしか  
年もすぎの戸  
を、あけてぞ今  
朝は別れ行く。  
(小學唱歌)

ノ人明治三十  
七年卒ス年六  
十六。  
夙成一早ク大  
人ブル。  
萎靡一元氣ガ  
衰ヘル。  
候一兆ト同ジ。  
古人一宋ノ朱  
熹ヲ指ス。

西郷隆盛一南  
洲ト號ス。鹿兒  
島ノ人。  
北齊書ニ「寧可  
玉碎。何能瓦全」  
碎けても玉とな  
る身はいさぎよ  
し、瓦と共に世  
にあらんより。  
(平野國臣)

自古能成絕大事業者、由其志氣堅忍不拔  
致之。不必皆高才之士也。彼少年夙成者、固  
非才智長進之兆、卽是後日萎靡之候耳。古  
人有言、曰、陽氣發處、金石亦透。精神一到、何  
事不成。

二五 言志二首

一 偶感

幾歷辛酸志始堅 丈夫玉碎恥甄全

西郷隆盛

我家遺法人知否 不爲兒孫買美田

二 欲出鄉題壁

釋月性

男兒立志出鄉關 學若無成死不還  
埋骨豈唯墳墓地 人間到處有青山

二六 言志錄抄

○學莫要於立志而立志亦非強之只從本  
心所好而已。

○有志之士如利刃百邪辟易無志之人如

月性一知圓清  
狂ト號ス。周防  
ノ妙圓寺ニ住  
ス。安政五年(五  
一八)寂ス。年四十  
二。  
墳墓地一祖先  
ノ墓ノ在ル地  
卽チ故郷。  
青山一骨ヲ埋  
ムル處。  
言志錄一 卷  
佐藤坦著ス。

辟易一音(ヘキ)  
「エキ」シリゾキ、  
サケル。

フカトス

ニルカセニヤス

鈍刀、童蒙侮翫。

○眞有大志者、克勤小物、眞有遠慮者、不忽細事。

辨似

辟易 || 交易 || 變易 | 平易 || 容易 || 簡易

本篇

二七

天壤無窮

日本書紀

天照大神、賜天津彥彥火瓊瓊杵尊八阪瓊曲玉及八咫鏡、草薙劍三種寶物、因勅曰、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆、當與

日本書紀一三十一卷。天武天皇ノ第三皇子、舍人親王勅ヲ奉ジテ撰シクマフ。  
寶寶 勅一敕ニ同ジ。誠ムルナリ。爾一汝ナリ。寶祚一天皇ノ位。  
〔興〕

二七 天壤無窮

三一

天壤一天地ナリ。

天壤無窮者矣。(修)

**練習**

(一) 天孫之降臨下土也、天祖賜以三種神器曰、玉曰、鏡、曰、劍

(二) 與天壤無窮、朕與爾臣民、拳拳服膺、咸一其德。

二八 伊勢神宮

青山延壽

青山延壽一鐵槍ト號ス。水戸ノ人。明治三十九年卒ス。年八十七。

上一訓「ホトリ」邊ナリ。

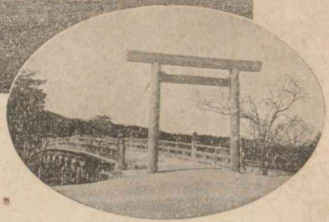
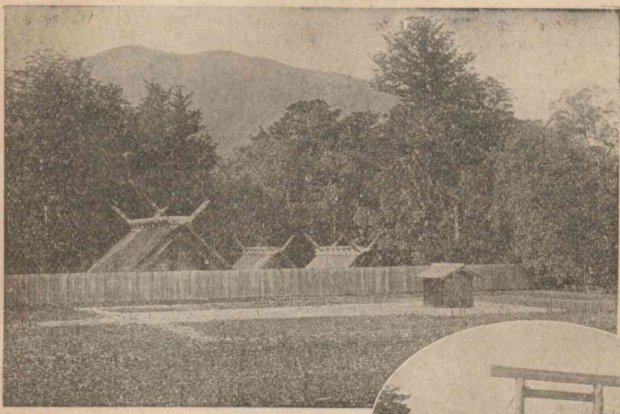
太廟一皇祖ノオクマヤ。

葺一音「シフ」訓

伊勢五十鈴川上、祀天照大神。是爲太廟。世稱內宮。神殿葺以茅。殿宇不崇高。左右有寶殿。有神門。皆係茅葺。儉德不文。以存上古遺

風眞可敬仰也。宮外老樹參天。鬱鬱葱葱。蓋

内宮ト宇治橋



千年外物使人悚然。生畏敬之心。外宮在山田。祀豐受大神。殿宇規制。與內宮無異。

矣。(修) (大八洲遊記)

**練習** (一) 鬱鬱葱葱 || 鬱葱

明明白白 || 明白  
悚然 || 肅然

「フク」文一修飾カザルナリ。

鬱鬱葱葱一樹木ノ茂リテ佳氣アルサマ。鬱ハ俗字。

「蓋」  
悚一音「シヨウ」訓「オソル」

豐受大神一五穀ノ神。

大八洲遊記一十三卷。青山延壽著ス。

炫耀一カガヤ  
カシ、マドハス。  
洵一音「ジュン」  
訓「マコトニ」  
陸織一ヒキツ  
ツキテ絶エザ  
ルサマ。  
〔所謂〕  
華表一鳥居  
阿里山一臺灣  
臺南州ニ在リ。  
臺灣阿里山檜  
樹所造也。以  
臺灣阿里山檜  
樹所造也。

〔辨似〕 內宮一内裏 外宮一外國  
(二) 葺以茅 葺之以茅 以茅葺之 茅葺

〔自修文〕 (一) 儉德不文

太廟、規制儉德不文如此。不似他神社佛閣窮極巧麗以炫耀流俗之目。洵可敬仰也。

(二) 明治神宮

明治神宮、在于東京代代木合祀。明治天皇昭憲皇太后。大正四年起工。九年竣功。朝廷列官幣大社。特致崇敬。庶民來拜者。陸續不絕。神域老樹鬱葱。宮殿不施粉飾。所謂白木造者。使人仰神德。其一大華表。臺灣阿里山檜樹所造也。

〔豈：乎〕

〔安：哉〕

二九 句 例 五

幸有此經之存于今。聖人豈不可學而至乎。  
立身行道。揚名於後世。以顯父母。豈非大丈夫之至願乎。

安可不竭力致身。以繼父志哉。

〔練習〕

彼天下之奇傑。我可得與之比乎。燕雀安知鴻鵠之志哉。安可不奮發立志。以答國恩。以顯父母哉。

母哉



三〇 上杉鷹山

一 孝百行之本

重野安繹

上杉治憲、號鷹山。幼有至性。善事其父。服養備至。常謂孝百行之本也。躬行率先。推以及親族子弟。皆詢以孝悌。父好散樂。治憲爲



上杉鷹山散樂

屢演之。以奉其歡。嘗集九十歲以上老者。舉

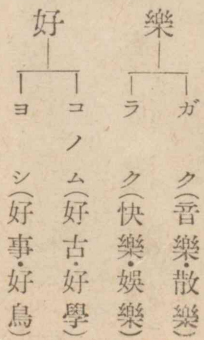
賞

重野安繹一咸齋ト號ス。薩摩ノ人。明治四十四年卒ス。年八十四。  
上杉鷹山一羽前米澤ノ藩主。文政五年(西八三)卒ス。年七十一。備一訓ツブサニ十分事コマカニ。  
散樂一今ノ能樂。

尙齒會。治憲奉父。臨之。躬饋薦父。治下翕然興于孝。(帝國史談)

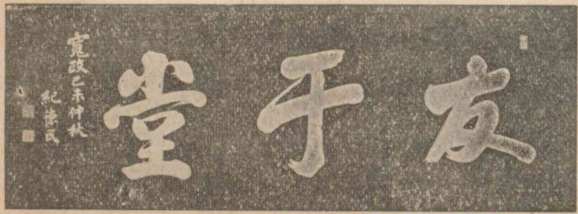
練習 興于孝 興仁

辨似



二 敬師 安井 衡

鷹山公好學。尤敬重師儒。其師細井平洲。嘗來米澤。公自出迎之。於



書洲平井細

尙齒一老人ヲ尙ブ。  
饋薦一音キ、セシ食フ長者ニ進ムルナリ。  
翕然一サカンニアツマリ合フサマ。翕音キフ。  
帝國史談一ニ卷。重野安繹著ス。  
安井衡一息軒ト號ス。日向ノ人。明治九年卒ス。年七十八。  
細井平洲一本姓ハ紀尾張侯ノ儒官。享和元年(西三六)卒ス。年七十四。  
友于堂ハ米澤藩學興讓館内

ノ教場。友于ハ  
書經ノ「惟孝友  
于兄弟」ノ略語  
ナリ。  
騶從一馬ニ乗  
レル從者騶音  
「スウ」

〔且：且：〕  
如堵一カキノ  
如ク多クナラ  
ブ。

讀書餘適一  
卷。安井衡著ス。  
久阪通武一宇  
ハ元瑞長門ノ  
人。元治元年(壹  
百貳拾門ノ變ニ  
自殺ス。年二十  
六。  
畢山一名ハ定  
靜。字ハ子安。勤  
王家ナリ。天保  
十二年(壹百)自

郊曰、今日爲先生前驅。屏去騶從。步而導之。且行且顧。以至于城。觀者如堵。皆歎公忘其貴而平洲。以道自重也。(讀書餘適)

三二 畢山至孝

久阪通武

田原藩士渡邊登。嘗著慎機論。得罪於幕府。繫江戸獄。爲人忠實。事母至孝。其在獄。眷眷懷母。瞬時不能措。一夜就寢。遽而起坐曰。母君。兒今歸矣。同囚聞之者。咸爲之泫然。後就

殺ス。年四十九。  
田原一三河國  
渥美郡ニ在リ。  
慎機論一。卷。  
外國ノ事情ヲ  
説キ。當世ノ事  
務ヲ論ズ。  
江戸獄一。江戸  
傳馬町ノ獄。  
眷眷一。勤厚ノ  
意深ク思ヒコ  
ガレルサマ。  
柬書一。手紙。  
藩侯一。田原藩  
主三宅康直。  
怠弛一。オコク  
リユル。弛音  
「シ」。  
珍襲一。大切ニ  
祕藏スル襲音  
「シ」訓「カサス」  
重ナリ。

國幽囚以其與朋友柬書相通。藩侯被怠弛



畫山華邊渡

之罪。於是  
竟自殺。登  
號畢山。巧  
畫。世人得

隻紙斷絹者皆珍襲云。

練習

泫然 || 漣然 柬書 || 書簡 怠弛 || 怠慢 隻

紙斷絹 || 斷簡零墨

辨似

繫一擊 獄一獄 眷眷一拳拳

大槻清崇一磐  
溪ト號ス。仙臺  
ノ人。明治十一  
年卒ス。年七十  
八。

怒一音「カク」俗  
ニ怒ニ作ル。誠  
アリテ謹ム。  
蘭丸一時ニ年  
十三。

款一音「クワン」  
款紋ハ刀ノサ  
ヤノキザミ模  
樣歟ハ俗字。  
射一言ヒアテ  
ル。音「セキ」

爲一「マネス」ト  
訓ズ。

三三 蘭丸誠怒

大槻清崇

森蘭丸嘗奉織田信長佩刀在側。刀鞘黑漆

有款紋數十條。蘭丸潛料記其數。

信長伺知之而不言也。居數日集

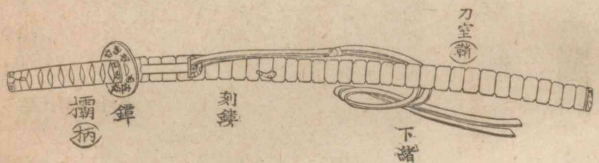
左右近臣撫其刀謂之曰有能暗

射鞘上款數者乃與此刀衆爭射

之不能中也。蘭丸獨默不言。信長

問汝何故不射之。蘭丸謹對曰臣

嘗料記其數矣。今若爲不知者而



織田信長佩刀

近古史談一四  
卷。大槻清崇著  
ス。

信玄一甲斐ニ  
在リ。謙信越後  
ニ在リ。兵ヲ信  
濃ニ出シテ相  
戰フ。

中之是賣主公以貪其賜也。臣心所深恥是  
以不敢信長悅其誠怒不欺賜以其刀。

(近古史談)

練習 賣主公ニ欺大人

辨似 刀一刃 暗一語 記一紀 料一料

三三 謙信義勇

一 所爭在弓箭 賴 襄

武田信玄國不濱海仰鹽於東海。今川氏眞  
與北條氏康謀陰閉其鹽。甲斐大困。上杉謙

氏眞一義元ノ長子。駿河ニ在リ。氏康一氏綱ノ子。相模小田原ノ城主。  
**鹽壚**



上杉謙信像

信聞之、寄書信玄曰、聞氏康氏眞困君以鹽。不勇不義。我與公爭、所爭在弓箭。不在米鹽。請自今以往、取鹽於我國。多寡唯命。乃命

賈人平價給之。（日本外史）

**練習** 以往 || 以後 多寡唯命 || 進退唯命

**辨似** 閉一閑 聞一聽 困一因

二 橫槩賦詩 青山延于

賈人一商人。

素一モトヨリ 征能州一遊佐 彈正、ソノ君 山義隆ヲ弑シテ、能登ノ七尾城ニ據ル。天正二年（三三）九月、謙信攻メテ之ヲ滅ス。適一訓「タマクマ」チヤウド。謙飲一「サカモリ」謙音「エン」宴ニ通ズ。遮莫一「サモアラバアレ」ト訓ズ。「ソレハサウアラウトモ、ママ」ヨノ意。續皇朝史略一五卷、青山延于著ス。

上杉謙信勇略絶人、善用兵。每臨行陣、馳行軍中、數次、隊伍乃定。素好藝文。其征能州、適值九月十三夜、會諸將、謙飲賦詩曰、

霜滿軍營秋氣清。數行過雁月三更。

越山并得能州景。遮莫家鄉憶遠征。

其風流如此。（續皇朝史略）

**練習** (一) 素好藝文 || 雅好文學 適 || 會

(二) 初更（午後八時）— 二更（同十時）— 三更（同十二時）— 四更（午前二時）— 五更（同四時）

三 失吾好敵手 賴 襄

氏政一氏康ノ  
長子。ソノ弟三  
郎ハ謙信ノ養  
子トナル。

「方」  
潛然一音「サン」  
「ゼン」涙ノ流ル  
ルサマ。

〔久之〕

長篠一三河ニ  
在リ。天正三年  
〔三五〕織田徳川  
ノ連合軍大ニ  
武田勝頼ヲ此  
ニ破ル。  
宿將一前代ヨ  
リノ名將  
弱子一ワカキ  
ムスコ。勝頼ヲ  
指ス。

信玄卒。北條氏政、馳使告之。謙信、謙信方食

信玄



武田信玄像

舍箸而歎曰、「失吾好敵手、  
矣。世有復此英雄男子乎。」  
因潛然流涕者久之。武田  
勝頼、敗於長篠也。武田氏  
老臣宿將多死。越後將士、  
說謙信曰、「甲斐兵新敗、可乘也。」謙信曰、「我與  
信玄數十戰、不能取。及其死、侮弱子、乘敗取  
之、何以對天下。」(日本外史)

後漢書一九十  
卷宋ノ范曄著  
ス。

木内倫一龍山  
ト號ス。讚岐ノ  
人。慶應三年〔五  
三七〕卒。年五十  
八。  
藤堂高虎一伊  
勢津藩ノ祖。寛  
永七年〔三九〇〕卒  
ス。  
加藤嘉明一賤  
嶽七本槍ノ一  
人。寛永八年卒  
ス。  
蒲生忠郷一氏  
郷ノ孫。

練習

何以對天下 || 何面目以對天下 || 不遇盤根錯  
節、何以別利器乎(後漢書)

辨似

箸一著 侮一悔 敗一破

三四 高虎、公直

木内 倫

藤堂高虎初與加藤嘉明、因事相惡。會蒲生  
忠郷卒、會津城無主。大猷公以其要鎮、殊難  
其代。密諭高虎、移之。領四十萬石。高虎辭以  
老、憊弗就。公問誰可者。對曰、「以臣觀之、莫加

大猷公一徳川  
三代將軍家光  
懃一音ハイ疲  
レ極マル。

〔弗〕

諧一音「カイ訓  
「ガナフ」和合ナ  
リ。

〔莫：若〕

〔惡敢：乎〕

徇一訓「シタガ  
フ」

擊壤錄一四卷  
木内倫著ス。

延喜一醍醐天  
皇ノ年號(五六一  
一五六三)  
天曆一村上天  
皇ノ年號(六〇七  
一六〇七)

藤嘉明若焉。彼其材略真可委任也。公訝之。曰、聞、卿與彼不諧久矣。如何舉之。曰、是國家之大事也。臣惡敢徇私憾而廢公議乎。公喜從其言。嘉明深自感愧、遂與修睦。(修刪)(擊壤錄)

練習

莫加藤嘉明若焉。莫若加藤嘉明焉。惡敢徇私憾而廢公議乎。不敢徇私憾而廢公議。

三五 延喜天曆之治

青山延于

一 寒夜脫御衣

醍醐天皇一在  
位三十三年。延  
長八年(五九〇)崩  
ズ。御年四十六。  
格制一キソク、  
キマリ。格式制  
令ナリ。延喜式  
ナドヲ指ス。  
藤原時平一基  
經ノ長子。時ニ  
左大臣タリ。  
職事一職務ア  
ル官吏。藏人ヲ  
イフ。殿上大小  
ノ公事ヲ掌ル。  
讓一訓「セム言  
ヲ以テ責ムル  
ナリ。  
〔豈宜：〕  
屏居  
頓一訓「ニハカ  
ニ立チドコロ  
ニ。

醍醐天皇臨御日久、勵精圖治。延喜中、新立格制、而風俗奢侈、多犯者。天皇患之。一日藤原時平、盛飾而入。帝見而大怒、使職事讓之。曰、今者嚴立格制、左大臣身長百僚、首犯國禁。大臣舉動、豈宜如此。時平惶懼、歸第屏居月餘。自是奢侈頓改。帝性慈仁、愛民。寒夜親脫御衣、以省民間凍餒。每見羣臣、假以辭色。嘗曰、持己嚴恪、人難盡言。故朕常溫顏色、以來諫者。(皇朝史略)

凍餒一コゴエ  
ウエル。餒、音、ダ  
イ  
嚴恪一オゴソ  
カニツツシム。  
溫(温)  
村上天皇一醍  
醐天皇ノ第十  
四皇子。在位二  
十二年。康保四  
年(六五)崩。御  
年四十二。  
偏倚一カタヨ  
ル。倚音、イ  
源延光一代明  
親王ノ子。醍醐  
天皇ノ皇孫。  
眷遇一目ヲカ  
ケテモテナス。  
理一訓「ラサム  
治ナリ。

二 天下皆稱寬

村上天皇、性明敏、留意政事、寬裕溫恕、恩無  
偏倚。源延光爲藏人頭。時帝甚任用之。一日  
延光侍側、眷遇頗衰。延光懼不朝。帝俄召之  
曰、「一學生藤原雅材者、甚有文才。卿何以不  
奏。」延光惶懼、遽奏雅材爲藏人。其好學愛才  
如此。嘗問侍臣曰、「外議以朕爲如何。」主曰、「天  
下皆稱寬。」帝曰、「是誠朕志也。理下以嚴、民必  
難堪矣。」一日召賤吏老者、密問曰、「當今與延

主殿寮一宮中  
ノ掃除湯沐等  
ヲ掌ル。  
燎燭一燎音、レ  
ウ。訓「カガリビ」  
燭音「シヨク」訓  
「トモシビ」  
率分堂一歳入  
補充ノ貢米ヲ  
別納スル所。

高倉天皇一後  
白河天皇ノ第  
四皇子。仁安三  
年(八三)即位。在  
位十二年。養和  
元年(八四)崩。御  
年二十一。  
清原賴業一明  
經博士タリ。文  
治元年(八四)卒  
ス。

喜之時、得失如何。吏曰、「無異。」帝切問再三。吏  
曰、「賤愚下吏、何知唯覺主殿寮多費燎燭、率  
分堂生草耳。蓋謂劇務至夜、租入少輸也。帝  
悟自是益加勉勵。後世言治者、必稱延喜。天  
曆云。(皇朝史略)

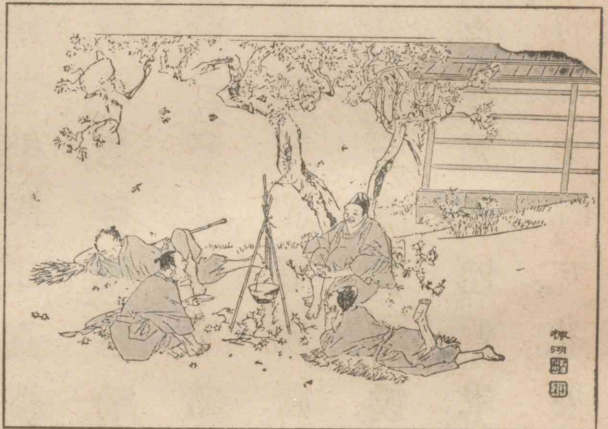
三六

煖酒燒紅葉

青山延于

高倉天皇、性仁孝。受學清原賴業。才藻英發。  
初、帝幼時、有獻楓樹者。帝極愛之。命藤原信

幼時一御年十  
 歲ノ時ナリ。  
 獻<sub>レ</sub>獻<sub>レ</sub>仕丁一禁中ノ  
 雜役ニ服スル  
 小モノ。  
 翦<sub>レ</sub>翦<sub>レ</sub>收一トラヘル。  
 捕ナリ。  
 叩頭一頭ヲ地  
 ニツケテ拜ス  
 ル頓首ニ同ジ。  
 從容一ユツタ  
 リトシタルサ  
 マ從<sub>レ</sub>音<sub>レ</sub>シヨウ  
 唐詩一唐ノ白  
 樂天ノ詩ニ林  
 間<sub>レ</sub>煖酒燒紅葉  
 石上題詩掃綠  
 苔トアリ。  
 教一遺<sub>レ</sub>シムニ  
 同ジ。



無<sub>レ</sub>復<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>問<sub>レ</sub>（修刪）（皇朝史略）

練習

煖酒燒紅葉 || 燒紅葉煖酒 命藤原信成守之

成<sub>レ</sub>守<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>。一日、仕<sub>レ</sub>丁<sub>レ</sub>將<sub>レ</sub>飲<sub>レ</sub>酒、  
 翦<sub>レ</sub>枝<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>薪、以<sub>レ</sub>煖<sub>レ</sub>酒。信成見<sub>レ</sub>、  
 而大<sub>レ</sub>驚<sub>レ</sub>。收<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>丁<sub>レ</sub>將<sub>レ</sub>罪<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>。會<sub>レ</sub>、  
 帝使<sub>レ</sub>信成上<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>樹。信成具<sub>レ</sub>、  
 奏<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>狀。叩<sub>レ</sub>頭<sub>レ</sub>請<sub>レ</sub>罪。帝從<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>、  
 曰<sub>レ</sub>唐詩有<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>林間煖酒燒  
 紅葉。誰教<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>丁<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>風<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>。

|| 命<sub>レ</sub>兵士攻<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub> 誰教<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>丁<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>風<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub> || 誰教<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>  
 生爲<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>善<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>

辨似

幼一幻 煖一暖 從  
 音<sub>レ</sub>シヨウ<sub>レ</sub>（從容）  
 音<sub>レ</sub>ジユウ<sub>レ</sub>（從順）

三七 道灌歌學 岡松辰

岡松辰一魏谷  
 ト號ス。豐後ノ  
 人。明治二十八  
 年卒ス。年七十  
 六。  
 道灌一名ハ持  
 資。文明十八年  
 三<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>卒ス。年五  
 十五。  
 簀衣一<sub>レ</sub>ミ<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>簀  
 音<sub>レ</sub>サ<sub>レ</sub>蓑<sub>レ</sub>ニ通ズ。  
 棣棠一<sub>レ</sub>音<sub>レ</sub>テイ  
 タウ<sub>レ</sub>訓<sub>レ</sub>ヤマブ  
 キ

太田道灌、嘗<sub>テ</sub>放<sub>レ</sub>鷹<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>野。會<sub>レ</sub>雨<sub>レ</sub>俄<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>。過<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>。借<sub>レ</sub>、  
 簀衣。少女折<sub>レ</sub>棣棠<sub>レ</sub>一枝<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>。道灌不<sub>レ</sub>擇<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>。  
 或<sub>レ</sub>謂<sub>レ</sub>道灌<sub>レ</sub>曰<sub>レ</sub>古歌有<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>、

七重八重花波咲計登毛山吹乃



「ヨロコブ」  
 釋一音「エキ訓  
 古歌有言一古  
 歌ハ兼明親王  
 ノ作。後拾遺集  
 ニ出ヅ。  
 持資いざわれ  
 見來らんとて  
 馬を馳せ出し  
 やがて歸りて  
 潮は干たりと  
 いふ。いかにし  
 て知りたりや  
 と問ふに「遠く  
 なり近くなる  
 みの濱千鳥鳴  
 く音に潮のみ  
 ちひをぞ知る  
 とよめる歌あ  
 り千鳥の聲遠  
 く聞えつとい  
 ひけり。常山紀  
 談」

實乃一都太仁無幾曾悲志幾。  
 蓋邦訓實乃與蓑衣相通。女子意訴家貧不  
 藏蓑衣也。道灌大愧自是折節讀書學國歌  
 究奧義。後率兵入下總夜自山下沿海而進  
 衆恐潮未退道灌驅馬出候潮須臾還報曰  
 潮涸矣。衆問其故曰古歌云  
 遠久奈利近久鳴海乃濱千鳥  
 鳴久音仁潮乃滿干遠曾知留  
 適聞鳥聲在遠所以知潮涸也。遂進兵果如

初學文軌一三  
 卷岡松辰著ス。

鶴警一「ツルノ  
 ケゴロモ」

看取一看ヨ取  
 ハ助辭。  
 一激一一度感  
 激スル。

其言。（初學文軌）

自修文 朗詠

- (一) 雪似鵝毛飛散亂。人被鶴警立徘徊。
- (二) 三五夜中新月色。二千里外故人心。

三八 詠史二首

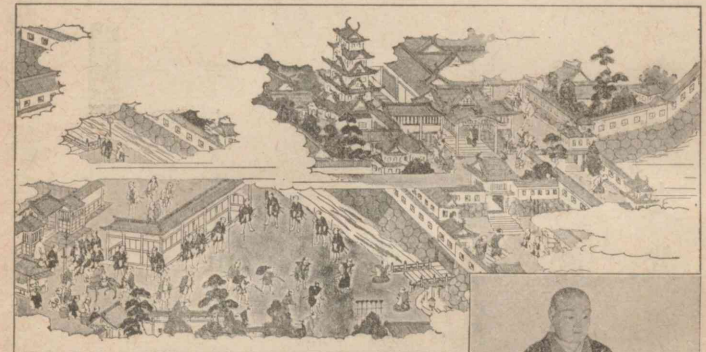
大槻清崇

村女應門未發辭。獵歸逢雨乞蓑時。  
 有華無實君看取。捧出棗棠黃一枝。  
 才兼文武有斯公。一激終能學國風。  
 斥候他年辨潮落。水禽聲在遠洋中。

雄邁一氣象ス  
グレテツヨシ  
邁音「マイ」

輔翼一タスク

賜一音「シヨク」  
訓「ナガメル」



城戸江ト像灌道田太

三九 築江戶城

重野安繹

太田道灌、雄邁有  
文武才。仕扇谷上杉定正。  
竭心輔翼相地武藏野、創  
築江戶城。濠深壁堅、營靜  
勝軒城中、西對富嶽、東望  
海洋、極眺矚之勝。嘗朝於

天子一後土御  
門天皇時ニ寛  
正五年(二二四)  
ナ

京師、天子勅問其風景。獻歌對曰、

我庵波松原、續幾海近久

富士乃高嶺、遠軒端仁曾見流。(修刪)(帝國史談)

練習 輔翼 輔佐 輔弼 增補 補習 囊 襄  
辨似 相地 相人 宰相 相國 望 海洋 臨 溪流

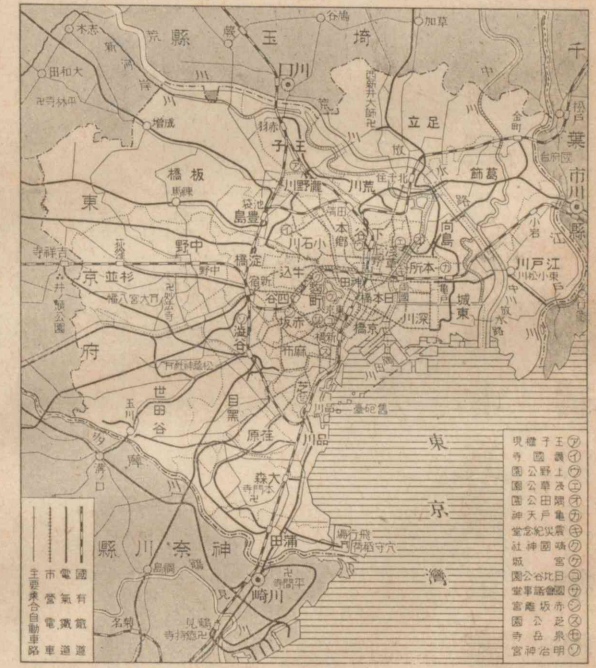
四〇 東京 大槻修二

東京之爲地、西北高陵、東南平衍。帶大河、枕  
內海。戶口百萬、通計其街衢、則及二百里程

大槻修二如  
電下號ス。仙臺  
ノ人。昭和六年  
卒ス。年八十七。  
平衍一平カニ  
廣シ。衍音「エン」  
枕一訓「ゾム」  
內海一東京灣。

天正一後陽成  
天皇ノ年號十  
八年(三五〇)  
朔一「ツイタチ」  
月ノ第一日。

墟一ナキアト。  
蕞一音「ホウ」訓  
「イラカ」屋根瓦  
屋棟ナリ。



實爲其西城之墟。當幕府盛時、海內侯伯、皆  
置邸第、重門連薨、及陞爲帝京、院省府署、大

之遠云。天正十  
八年八月朔、德  
川家康始鎮江  
戶城。其後十四  
年、開幕府、傳十  
五世、二百六十  
餘年、而廢宮城。

輪奐一建築高  
大ニシテ美麗  
ナルサマ。

依田百川一學  
海ト號ス。下總  
佐倉ノ人。明治  
四十二年卒ス。  
年七十七。

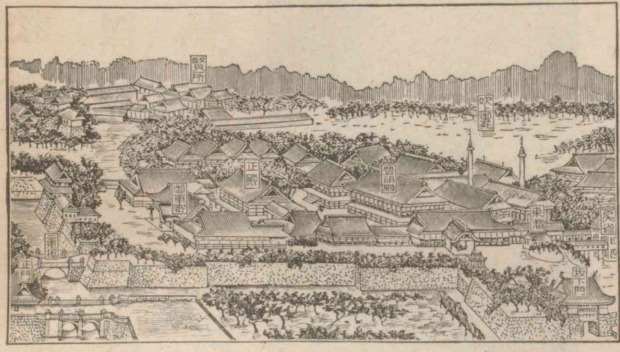
小學校、輪奐壯嚴、更改其觀。(修刪)

練習

爲其西城之墟。東京爲帝國首府。

辨似

裁一裁 薨一夢一薨  
陞一陞 陸一階



四一宮城

依田百川

宮城在東京市中央。周圍繞以深濠。有櫻田・大手・半藏等諸門。二重橋爲正門。城內古

鬚鬚一音「アイ」  
 「タイ」雲ノ盛ニ  
 タナビクサマ  
 臺樹一「ウテナ」  
 見ハラシ臺樹  
 ハ屋根ノアル  
 物見臺  
 瞻一音「セン」仰  
 ギ見ル  
 細莎一細カナ  
 ル「シバクサ」  
 茵一音「イン」訓  
 「シトネ」シキモ  
 ノ  
 像  
 煌一光リカガ  
 ヤク  
 若一如ニ同ジ

松鬱蒼、瑞雲鬚鬚。可以見太平氣象矣。正殿  
 豐明殿、樓閣臺榭、隱現樹間。人民徘徊瞻望、  
 有垂淚拜伏者、非無故也。城外平坦、細莎如



楠木正成像

茵、道路縱橫有楠木中  
 將、銅像立焉。洵偉觀也。  
 宮城内外、置電燈數十  
 基、煌若白晝。(修册)

練習 瑞雲 || 慶雲 樓閣臺榭 || 樓臺 非無故 || 有  
 故 細莎如茵 || 紅花如錦 煌若白晝 || 炳如

德川齊昭一景  
 山下號ス、水戸  
 藩主、萬延元年  
 (三五〇) 薨ズ、年  
 六十一  
 五代史ニ、豹死シテ  
 留皮、人死シテ、  
 留名、  
 迹一跡ニ同ジ、  
 无一無ニ同ジ。

日。星。

辨似

瞻(瞻望) | 瞻(瞻力) | 檐(檐端) | 閣 | 閣 | 茵 | 茵  
 垣 | 坦 | 桓 | 洵 | 恂 | 徇

四二 大楠公

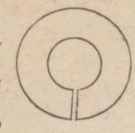
德川齊昭

豹死留皮、豈偶然。  
 湊河遺迹、水連天。  
 人生有限、名无竭。  
 楠子精忠、萬古傳。

豹死留皮、豈偶然、湊河遺  
 迹、水連天、人生有限、名无  
 竭、楠子精忠、萬古傳。

德川齊昭書

齋藤馨一竹堂  
ト號ス。陸前ノ  
人。嘉永五年三  
五三卒ス。年三  
十八。  
清見寺一駿河  
庵原郡興津町  
ニ在リ。  
瞰一俯シテ見  
オロス。  
薩陀山一興津  
町ト由比町ト  
ノ間ニ在リ。  
玦一環ノ一部  
缺ケタルモノ。  
古支那人佩ビ  
テ飾ト爲ス。



田子の浦ゆ、ち  
も出でて見れば  
眞白にぞ、富士



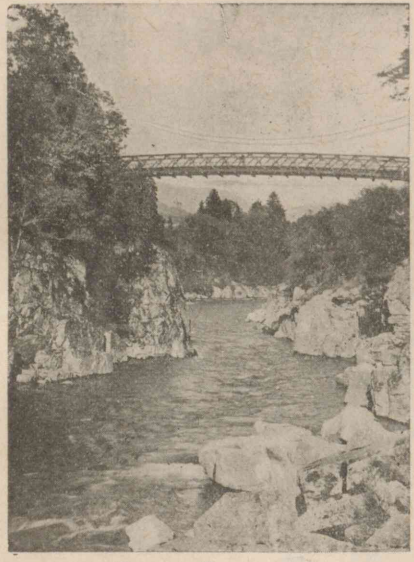
四三 東海道第一之勝 齋藤馨  
登清見寺、瞰三保松原、蒼翠欲滴、蓮峯朗出、

原稱田子浦。信東海道第一之勝也。(竹堂遊記)  
高爽 || 高燥 蓮峯 || 蓮嶽 || 芙蓉峯  
于其左、實一佳境、經興津、  
上薩陀山、地高爽、與富嶽  
相對、俯則海波如玦、嶽影  
落水、上下相映、自此至蒲

の高嶽に雪は降  
りける。  
(山部赤人)  
信一訓「マコトニ」  
竹堂遊記一ニ  
卷、齋藤馨著ス。  
林長孺一鶴梁  
ト號ス。江戸ノ  
人。幕府ニ仕へ、  
遠州中泉ノ代  
官トナル。明治  
十一年卒ス。年  
七十三。  
浜一音ソ、訓サ  
カノボル。溯ニ  
同ジ。  
天龍川一長野  
縣ヨリ出デ、靜  
岡縣ヲ經テ、遠  
州灘ニ入ル。  
蘇東坡一名ハ  
軾宋ノ人。詩文  
ヲ善クス。

辨似 瞰(俯瞰)一瞻(仰瞻) 朗一郎

四四 浜天龍川



天龍川

棹之進寸退尺、終不能達、蘇東坡云、學書如

天龍川流急上流  
尤甚、余嘗命舟、自  
船明村至橫山村、  
時雨後水肥、流益  
急、舟人執棹、窮力

林長孺

〔不啻不〕

鶴梁文鈔十卷、林長孺著ス。

撐一音「クウ訓」サヲサス「撐ハ俗字」。

篙一音「カウ訓」サヲ「竿ニ同ジ」朱熹一晦庵ト號シ、文公ト諡ス。南宋ノ大儒。鹽谷時敏一青山ト號ス。東京ノ人。大正十四

○ルガ急流。用盡氣力、不離舊處。余始以坡論爲誠然。今泝此河、不啻不離舊處。又退舊處。但此際、兩崖絕壁奇勝不可言。因其進退一處、得縱觀之、亦急流之賜也。（鶴梁文鈔）

練習

（一）不啻不離舊處、又退舊處

（二）爲學正如撐上水船、一篙不可放緩（朱熹）

辨似

崖一岸

壁一壁

棹

サヲ（名詞）  
サヲサス（動詞）

四五 守重巡視蝦夷 鹽谷時敏

一、年卒ス。年七十。守重一重藏ト稱ス。江戸ノ人。文政十二年三四月卒ス。年五十九。寬政ノ初メ、露人蝦夷ニ寇ス。抵一訓「イタル」撰一音「クワン」ツラヌキテ著ル。〔何爲〕

近藤守重石像ト測地圖



寬政初、幕府有事於蝦夷。近藤守重受命、巡視東抵擇捉北窮樺太、出入無人之境、備歷阻艱。其航擇捉會風浪大作、船將覆。守重俄起撰甲、或笑曰、衆皆輕裝、何爲著重甲。守重曰、君等習泅、幸可得免。余自必死、使人知幕府巡使近藤某

松前一渡島ノ南端ニ在リ。羈屬一ツナギテ從屬セシムル。羈音「キ」。化外一王化ノ及バザル僻地。露國一魯國トモ書ク。駸駸一馬ノ疾ク走ルサマ。轉ジテ物事ノハヤク進ムヲイフ。駸音「シン」。佃一音「デン」。獵ナリ。漁一スナドリ。播一音「ハ」。施クナリ。シキ及ボス。轄一音「クワツ」。支配シテ治ムル。轄管ト熟ス。

耳。先是幕府令松前藩羈屬蝦夷化外視之。其後露國駸駸南下移其人與蝦夷雜居守重既至按其地理相其風土開險塞通橋梁建廬舍教佃漁斥逐露人畫定疆界大播恩威夷民悅服尋收松前封土置奉行轄之守重之力居多矣。(青山文鈔)

練習

化外視 || 度外視 || 奴隸視  
險塞 || 閉塞 || 城塞 || 要塞

疆(疆土) | 疆(自疆)

青山文鈔一卷。鹽谷時敏著。長尾景翰一秋水ト號ス。越後村上ノ人。文久三年(五三)卒ス。年八十五。寒柝一寒夜ニ擊ツ夜廻ノ拍子木。柝音「タク」。北辰一北極星。銅標一漢ノ馬援交趾ニ到リ。銅柱ヲ立テテ漢ノ極界ト爲ス。

四六 松前城下作 四七 閒宮窮滿洲

四六 松前城下作 長尾景翰  
海城寒柝月生潮  
波際連檣影動搖  
從此五千三百里  
北辰直下建銅標  
四七 閒宮窮滿洲 齋藤正謙



關海山

開宮林藏一倫  
宗ト號ス弘化  
元年(三五〇四)卒ス  
年六十五

山海關一河北  
省ニ在リ  
楚一苦痛ナリ  
窮困一ユキツ  
マリクルシム  
窮音(キン)

慶長十八年(三二  
七三)  
支倉六右衛門  
一名ハ常長慶  
長二十年一月  
羅馬ニ至ル元  
和八年(三二八三)卒  
ス年五十二

開宮林藏、水戸、産也。幕府之開蝦夷、募人往、  
窮滿洲地方。林藏慨然應募而行。渡黑龍江、  
抵山海關、不得入而返。行程凡數千萬里、經、  
兩歲之久、飢渴窘困、苦楚  
萬狀、未嘗少動心。亦偉男  
子也。



支倉六右衛門像

自修文 始至歐洲

慶長十八年、陸奥守伊達政宗、遣其臣支倉六右衛門、  
於羅馬七年、乃歸。日本人之至歐洲、以是爲始。時、日  
本船、雇洋人、駛往。闖船百八十人、獨支倉得歸。携有羅

馬、回翰及十字架等物。時耶蘇教禁令正嚴、遂祕其事。  
(日本國志)

羅馬一羅馬法  
王廳ヲイフ  
駛一音(シ)訓(ハ  
ス)馳ナリ  
闖一音(カ)フ合  
ノ義(ス)ベテ  
秘(秘)

日本國志一四  
十卷清ノ黃遼  
憲編ス  
重矩一重昌ノ  
長子、上野安中  
侯ノ祖、寛文八  
年京師所司代  
ト爲ル。延寶元  
年(三三三)卒ス。年  
五十七。  
童豎一召使ノ  
コドモ。豎音(ジ  
ユ)

四八 重矩寬厚

青山延子

板倉重矩家、有累世所傳寶弓。常置之座隅。  
一日、童豎窺其亡、虛引數次、弓忽壞。童豎因  
室老請罪。室老曰、此主公累世之寶器、今汝  
壞之、必觸盛怒。乃令屏居待罪。及還、室老伺  
聞言之。重矩神色不異。召童豎、徐言曰、吾愛



キ矢ヲツガヘズニ引クコト。屏退ナリ。不虞一思ヒガケヌ事變。瀕一音「ヒン」誤「フム」セマル弗一不ニ同ジ性度一ウマレツキト、ハラマヘト。性質度量ナリ。明徵錄一十卷。青山延于著ス。

中村和一栗園ト號ス。近江水口藩ノ人。明治十四年卒ス。年七十六。小學ニ人常咬得菜根、則百事

此弓常備不虞。方一旦有事而壞損、必瀕危難。今汝虛引而折、此吾之幸也。釋而弗問。其性度如此。(明徵錄)

練習 不虞 || 不慮 || 不意 瀕危難 || 瀕死  
辨似 隅一偶 徐一除 性一姓 性度 || 大度一法  
度 || 制度

四九 咬菜軒

中村和

板倉重矩種菜于園中、有客手摘以薦之。匾

可「做」トアリ、做ハ作ノ俗字。匾一額ヲカケルコト。散官一官位アリテ常職ナキナリ。重矩、寛文五年(三三三)老中トナル。驕溢一音「ケウ」イツ「オゴリ」テ分ニ過グ。不肖一自己ノ謙稱。父ニ似ザルノ義ナリ。日本智囊一六卷。中村和著ス。慎思錄一六卷。貝原篤信著ス。

其廬曰咬菜軒。及貴、或謂之曰、昔者君居散官、其咬菜固也。今爲老中、而猶咬菜、恐來識者之譏。重矩曰、大抵人情、位高祿多、則忘貧賤時、驕溢以災其身者、往往有之。余不肖、聊以是爲知足之警耳。(日本智囊)

五〇 慎思錄抄

貝原篤信

一 以忘初爲誠  
衆人居富多、忘貧。須節儉而無奢侈。居貴多

存恤一ナグサ  
メアハレム。恤  
音「ジュツ」  
疎一音「ソ」訓「オ  
ロソカ」「ウトン  
ズ」  
癩一愈ニ同ジ。

振古一極メテ  
古キ世。

忘故舊。當存恤而不疎。歲長多忘。父母須終  
身思慕。病癒多忘。慎須常思病苦時。凡自修  
者。當以忘初爲誠。(修刪)

練習

須義勇奉公

當拳拳服膺

宜自彊不息

二 勤儉・忘奢

勤儉二者、治國保家之道也。忘奢二者、亡國  
破家之道也。蓋勤業者、不怠惰以失時。儉用  
者、不奢侈以傷財。凡振古以來、家國之興也、  
無不由于勤儉者。其亡也、無不由于忘奢者。

也。

三 用財法

君子棄其財、而救貧窮者、非不愛其財。愛其  
財甚、而欲用之德義也。故能賑恤貧窮者、視  
其平生用財、必儉約不妄費之士也。不能救  
貧窮者、必驕奢妄費之人也。

練習

賑恤ニ救恤 驕奢ニ豪奢

棄一葉

愛惜一仁愛

妄一怠

窮(窮困)一躬

(躬行)

儉(儉約)一險(危險)

「非不...」  
愛一惜ナリ。  
賑恤一貧困ノ  
者ニ財ヲ施シ  
メグム。  
「不妄...」

徳川光圀 水戸藩主。大日本史ヲ編纂ス。元祿十三年(一七〇〇)薨ズ。年七十三。

女功 女ノ仕事。百姓 一般人。大日本史 四卷。記スル所。古代ヨリ吉野朝ニ至ル。李紳 唐ノ詩人。

五一 詔勸農蠶

徳川光圀

繼體天皇元年春三月、詔曰、朕聞、一夫不耕、則天下或受其飢。一婦不織、則天下或受其寒。是故帝王躬耕以勸農業、后妃親蠶以勸女功。況在羣寮百姓、其可廢棄農績乎。有司普告天下、令識朕意。(修刪) (大日本史)

五二 憫農

李紳

鋤禾日當午、汗滴禾下土。  
誰知盤中餐、粒粒皆辛苦。

殮(殮)

山縣大貳 一名ハ昌貞。勤王家。甲斐ノ人。明和四年(一七六七)卒ス。年四十三。

青木昆陽 一名ハ敦書。文藏ト稱ス。武藏ノ人。幕府ニ仕ヘ、書物奉行ニ累遷

自修文 富强

食足謂之富、兵足謂之強。富且強者、天下之大利也。食既足矣、兵既強矣。然後國可以無虞也。是以先王不貴珠玉、而貴稻粱。(山縣大貳)

五三 甘藷先生

原善

青木昆陽嘗歎曰、凡罪人減死、處流刑者、要

ス明和六年三  
四ニ卒ス年七  
十二

〔豈不...哉〕  
〔即...〕

種藝一ウエツ  
ケル。  
歎一音「ケン」穀  
物ノ實ラザル  
コト。  
菜色一餓エテ  
顔色ノ青キヲ  
イフ。  
蕃薯一サツマ  
イモ。  
官藥園一今ノ  
東京市小石川  
植物園ナリ。  
國字一假名ナ  
リ。  
鏤一音「ル」訓「エ  
ル」板木ニホリ  
ツケル。

在使<sub>ル</sub>其終<sub>ヘ</sub>天年<sub>ヲ</sub>耳。然諸島少<sub>シ</sub>五穀常<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>海產  
木實<sub>ヲ</sub>給<sub>ス</sub>食<sub>ニ</sub>。是<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>往<sub>レ</sub>往<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub>免<sub>ル</sub>餓死<sub>ヲ</sub>。豈<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>痛<sub>シ</sub>

哉。即<sub>シ</sub>雖<sub>モ</sub>種藝<sub>ノ</sub>地<sub>ト</sub>遇<sub>ハ</sub>歲<sub>ニ</sub>歉<sub>ナル</sub>則<sub>チ</sub>民



墓ト像陽昆木青

之<sub>ノ</sub>官藥園中<sub>ニ</sub>則<sub>チ</sub>極蕃殖<sub>ス</sub>。於<sub>テ</sub>是<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>國字<sub>ヲ</sub>著<sub>シ</sub>蕃薯  
考<sub>フ</sub>一<sub>ノ</sub>卷<sub>ヲ</sub>而<sub>シテ</sub>述<sub>ス</sub>其<sub>ノ</sub>培植<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>法<sub>ヲ</sub>。官鏤<sub>リ</sub>版<sub>ニ</sub>併<sub>セ</sub>種<sub>子</sub>行<sub>ハ</sub>

不<sub>レ</sub>能<sub>ハ</sub>無<sub>キ</sub>菜色<sub>ノ</sub>意<sub>者</sub>百  
穀<sub>ノ</sub>外<sub>ニ</sub>可<sub>キ</sub>以<sub>テ</sub>當<sub>ツ</sub>穀<sub>者</sub>  
莫<sub>ク</sub>如<sub>ク</sub>蕃薯<sub>也</sub>。乃<sub>チ</sub>陳<sub>レ</sub>官  
求<sub>フ</sub>種<sub>子</sub>于<sub>レ</sub>薩摩<sub>ニ</sub>試<sub>ス</sub>種<sub>ヲ</sub>

下<sub>ニ</sub>諸國及<sub>レ</sub>諸島<sub>ニ</sub>未<sub>ダ</sub>數年<sub>ナラ</sub>無<sub>ク</sub>處<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>種<sub>ス</sub>。至<sub>レ</sub>今<sub>ニ</sub>天下  
被<sub>ル</sub>其<sub>ノ</sub>利<sub>ヲ</sub>。雖<sub>モ</sub>歲<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>登<sub>ラ</sub>民<sub>不</sub>遽<sub>ニ</sub>餓<sub>エ</sub>者<sub>ハ</sub>實<sub>ニ</sub>昆陽<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>惠<sub>也</sub>  
及<sub>レ</sub>無<sub>ク</sub>窮<sub>矣</sub>。題<sub>シ</sub>其<sub>ノ</sub>碑<sub>曰</sub>甘<sub>シ</sub>諸<sub>ノ</sub>先生<sub>ノ</sub>墓<sub>有</sub>以<sub>レ</sub>哉<sub>也</sub>。  
(先哲叢談)

行<sub>下</sub>一<sub>ノ</sub>施<sub>下</sub>  
ス<sub>ト</sub>。  
〔無...不...〕  
登<sub>一</sub>稔<sub>(ミノル)</sub>  
ナリ。  
墓<sub>一</sub>東京<sub>市</sub>目  
黒<sub>區</sub>ニ<sub>在</sub>リ。  
以<sub>一</sub>「ユエ」<sub>ト</sub>訓  
ズ<sub>因</sub>ナリ。  
〔有<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>哉〕

野中兼山一<sub>ノ</sub>名  
ハ止<sub>ト</sub>土佐藩<sub>ノ</sub>  
家老<sub>寛文</sub>三年  
(三三)卒<sub>ス</sub>年四  
十九

辨似

免一免 殖一植 培一倍一陪 版一阪  
碑一牌

五四 兼山遠慮

原

善

野中兼山<sub>ハ</sub>土佐<sub>ノ</sub>人<sub>ナリ</sub>世<sub>ニ</sub>仕<sub>フ</sub>國侯<sub>ニ</sub>嘗<sub>テ</sub>來<sub>ル</sub>江戶<sub>ニ</sub>及<sub>レ</sub>歸

〔無物不有〕  
 廣一音「セイ」訓  
 「モクラス」  
 蛤蜊一音「カフ」  
 「リ」アサリ「ハマ  
 グリ」ノ類  
 無恙一無事ナ  
 リ  
 饋一訓「オクル」  
 食物ヲオクル  
 〔以爲〕  
 異味一常ニ異  
 リタルウマキ  
 モノ  
 〔不獨〕  
 飮一音「ヨ」訓「ア  
 キタル」飽ナリ

期先致書鄉人曰、土佐無物不有、自江戶齋  
 歸、唯有蛤蜊一艘耳。海路幸無恙、以歸日、饋  
 之。衆以爲得嘗異味。計日待歸、既至、則命投  
 其所漕於城下海中、不餘一箇。衆怪問、兼山  
 笑曰、此不獨饋諸卿等、使卿等子孫亦飮之  
 也。自此後、果多生蛤蜊、遂爲名產。衆始服其  
 遠慮。(先哲叢談)

練習 無物不有 無處不種 無書不讀 無不有物  
 饋諸卿等 饋之於卿等 通諸古今 不獨

饋諸卿等 不獨朕忠良臣民

辨似

饋一贈一送

嘗

ナム(新嘗祭)  
 ココロム(嘗試)  
 カツテ(嘗來江戶)

五五 論語抄

○子曰、人無遠慮、必有近憂。(衛靈公篇)  
 ○見利思義、見危授命。(憲問篇)  
 ○子曰、志士仁人、無求生以害仁、有殺身以  
 成仁。(衛靈公篇)

聯璧一ニツナ  
ラベタル美玉  
二人ノ秀才ニ  
喩フ。  
高杉晉作一長  
門ノ人慶應三  
年（三五七）卒ス。年  
二十九。  
英邁不羣一人  
ナミスグレル。  
攻一治ナリ學  
修スル。  
吉田松陰一名  
ハ短方通稱ハ  
寅次郎長門藩  
士ニシテ勤王  
家ナリ。安政六  
年（三五九）卒ス。年  
三十。  
松下村塾一松  
陰家塾ノ名萩  
城ノ東ニアリ。

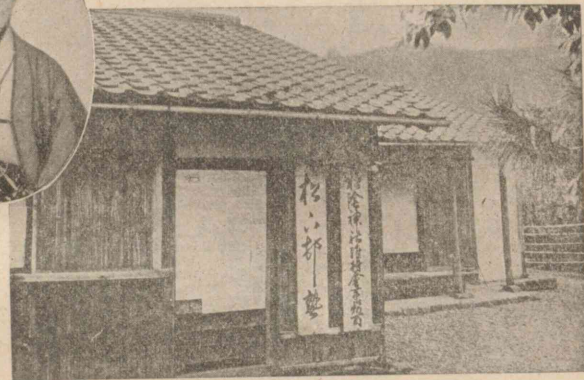
五六 松下聯璧  
岡本監輔  
高杉晉作號東行。天資英邁。不羣。識見過人。  
幼時好賦歌詩。已而廢之。專攻兵書。年十九  
入松下村塾。從吉田松陰受業。松陰素稱久  
阪元瑞爲國  
士無雙。及獲  
晉作大喜。每  
議事多延晉

窮善其身達利天下  
是此古言當贊隱者  
乙丑冬 東行頑愚居士題

書作晉杉高

窮善其身達利天下。是此古言當贊隱者。  
乙丑冬 東行頑愚居士題  
頑愚居士題  
久阪元瑞一名  
ハ通武長門ノ  
人。元治元年（三  
五三）蛤門ノ變  
ニ自殺ス。年二  
十六。  
不羣一羈晉キ  
訓「ツナグ」不羈  
ハツナガレメ  
コト。常規ヲ以  
テ律セラレメ  
コトナリ。  
動一「ヤヤモス  
レバ」トモスレ  
バノ意。

像作晉杉高ト塾村下松



作然晉作任才不羈。元瑞守教攻苦。故松陰

常稱元瑞動抑。晉作晉  
作爲之發憤。業大進。元  
瑞歎曰。晉作非吾所及  
也。晉作聞之曰。元瑞天  
下之奇傑。我可得與之  
比乎。松陰聞之欣然曰。  
「二生推讓如此。國家之  
福也。」晉作元瑞適同齡。時人稱

明治中興先覺  
志一二卷岡本  
監輔著ス。

爲<sup>セリ</sup>聯<sup>〇</sup>璧<sup>ト</sup> (明治中興先覺志)

**練習** 不羣 || 拔羣 || 拔羣 無雙 || 無比 發憤 || 發憤  
憤 我可得與之比乎 || 我不得與之比也

伊藤博文一春  
畝ト號ス。長門  
ノ人。内閣總理  
大臣タルコト  
數次。明治四十  
二年。哈爾濱ニ  
客死ス。年六十  
九。  
廊廟一朝廷。  
棟梁器一國家  
ノ重任ニ當ル  
人。  
藤森大雅一弘  
庵ト號ス。江戸

五七 松門受教 伊藤博文  
道德文章敍彝倫 精忠大節感明神  
如今廊廟棟梁器 多是松門受教人。

五八 取友之道 藤森大雅

ノ人。文久二年  
三三卒ス。年六  
十四。  
故曰一孔子ノ  
語論語里仁篇  
ニ出ヅ。  
如不及齋文鈔  
一三卷。藤森大  
雅著ス。  
櫻祠一大阪ノ  
櫻ノ宮。  
黃鳥一ウグヒ  
ス。  
我が宿の花見が  
てらにくる人は  
散りなむ後ぞこ  
ひしかるべき。  
(凡河内躬恆)  
廣瀬謙一旭莊  
ト號ス。豊後ノ  
人。文久三年三  
三卒ス。年五  
十七。

君子取友之道有交鄰之義。百金買宅。千金買鄰。謂鄰之不可不擇也。況於友乎。然水深而魚聚。樹茂而鳥來。君子求友之道亦在修德於己耳。德修於己則良友自至。故曰德不孤必有鄰。(如不及齋文鈔)

**自修文** 遊櫻祠  
花開萬人集 花盡一人無 但見雙黃鳥  
綠陰深處呼 (廣瀬謙)

橋本左内一名ハ綱紀字ハ伯綱宋ノ岳飛ノ人ト爲リヲ景仰シテ景岳ト號ス。福井藩ノ士。安政六年三  
 五也卒ス。年二十六。  
 侃侃剛直ノサマ。侃音「カン」川路聖謨一豊後ノ人。幕命ヲ奉ジテ屢露國ノ使者ト交渉ス。戊辰ノ變憂憤シテ自殺ス。年六十九。  
 【見ル】  
 晤一面會ナリ。劉一音「ガイ」劉到ハ切ニ至リトドク。

五九 橋本左内

重野安繹

橋本左内、越前福井人。性溫粹謙和、未嘗與人爭。然其臨節幹事、侃侃

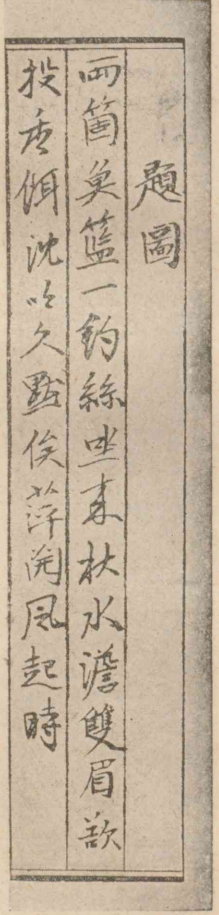


橋本左内像

正言、不少屈撓、必竭其委曲。故人亦感其誠意、皆許心腹。川路聖謨以老練見稱。語人曰、昨夜晤橋本生、其言論剴到、吾半身殆爲截取。吾閱人多矣、未見如生者。武田耕雲齋與君一見如舊。歎曰、東湖死後、復有

截取一切リ取ル。截音「セツ」武田耕雲齋一水戸藩士。藩士ノ正奸二黨ニ分ルルヤ、正黨ノ首領トナル。慶應元年(五三)卒ス。年六十三。弱冠一二十ヲ弱トイヒ、冠ス。題圖  
 兩箇魚籃一釣絲。坐來秋水澹雙眉。欲投香餌沈吟久、默俟萍開風起時。

東湖君齡纔踰弱冠、而爲先輩名士之所推服。如此、其才學器識之概、可以想見。已其論時世、曰、隨宇内形勢、斷然變鎖國之風、器械



橋本詩稿

藝術、取於彼、仁義忠孝、存於我、以謀富強。其論洋學、曰、洋學宜興、善興則其利甚多。不善興、則其害不可勝言。嗚呼、君之達見老識、豈



拵一音「ヤク」扼  
ニ同ジ。搯腕ハ  
ウデヲキビシ  
クニギル。奮ヒ  
テ意氣ゴムサ  
マ。

〔…乎哉〕

宣長一享和元  
年(四六)卒ス年  
七十二。

〔謂クモ〕  
古事記一三卷  
太安麻呂撰ス。  
我方國開闢ヨ  
リ推古天皇ニ  
至ル歴史。  
眞淵一遠江ノ  
人。國學ノ大家。  
ソノ居ヲ縣居  
ト號ス。明和六

慷慨搯腕、取快一時、而不知大計者之比乎。  
哉。(橋本景岳墓表)

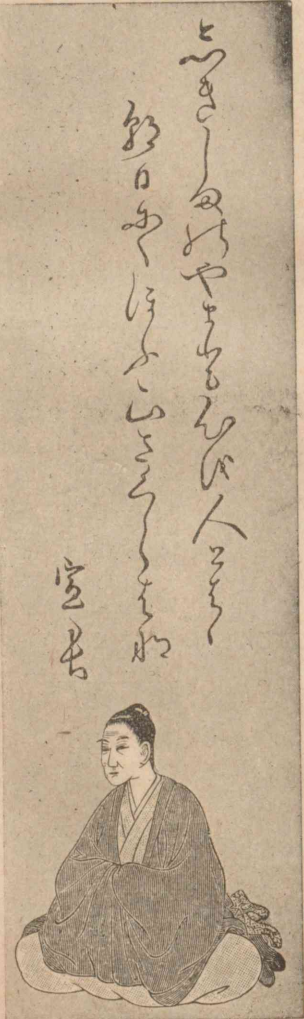
六〇 宣長明邦典

重野安繹

本居宣長、伊勢松阪人。常以究邦典、明古道、  
自任。謂古道之傳于今者、賴有古事記耳。因  
欲註釋以公世、患無良師。會賀茂眞淵、以公  
事來松阪。宣長往見之、執弟子禮、具陳其意。  
眞淵謂之曰、明古道、宜先究古言。究古言、莫

善於萬葉集。予專精萬葉、將漸及古典。今老  
矣。子年力方壯、黽勉匪懈、必能成業。然事有  
先後。登高自卑、躡等直前、竟無所得。子其記

年(三四)卒ス年  
七十三。  
具一ツブサニ  
備ニ同ジ。  
萬葉集一二十  
卷、上代ノ歌集。  
年力一年齢ト  
精力ト。  
黽勉一ツトメ  
ハゲム。黽音、ビ  
ン。  
しきしまのやま  
と心を人とはは  
朝日にほふ山  
さくらにはな  
宣長  
躡一音「ロフ」躡  
ユルナリ。躡等  
直前ハ順序ヲ  
フマズニ一足  
トビニ進ムナ  
リ。  
淹博一ヒロク  
學問ニ通ズル。  
淹音「エン」



之。宣長服膺其言、鑽研攻苦、遂著古事記傳  
四十四卷、經三十五年而成。時年六十九。淹

六〇 宣長明邦典

精核一クハシク、シラベ究メル核音、カク

辟一クトヘバ、譬ニ同ジ、邇ト近ナリ、

博精核、貫穿古今。邦典因以大明。其見真淵、前後一次、後惟寄書以質疑義而已。而言必稱師、終身不衰。（帝國史談）



- （一）明古道、宜究古言。究古言、莫善於萬葉集。
- （二）君子之道、辟如行遠、必自邇。辟如登高、必自卑。

（中唐）

### 六一 教育勅語

明治二十三年十月、上召總理大臣山縣有朋、文部大臣芳川顯正、親賜勅語、令國民知所遵由。文部大臣乃

附訓令、頒布天下、謂之教育勅語。

朕惟我皇祖皇宗、肇國宏遠、樹德深厚。我臣民、克忠克孝、億兆一心、世濟厥美。此我國體精華、而教育淵源、亦實存乎此。爾臣民、孝于父母、友于兄弟、夫婦相和、朋友相信、恭儉持己、博愛及衆、修學習業、以啓發智能、成就德器、進公益、開世務、常重國憲、遵國法、一旦緩急、則義勇奉公、可以扶翼天壤無窮之皇運矣。如是、不獨朕忠良臣民、又足以顯彰爾

祖先遺風矣。斯道也、實我皇祖皇宗之遺訓、  
 而子孫臣民所當俱遵守也。通諸古今而弗  
 謬。施諸中外而弗悖。庶幾朕與爾臣民俱拳  
 拳服膺、咸一其德。

新修漢文入門 (新制版) 終

部首名稱並用例

イニベン ニス(水) ハ凍ル義	仁信倫健	企僉	冬	用
ノハ凍ル義	冰冷凍凝	号	召各吉	旁
口クチヘン	叫吐吐吸		堂堡塵	
土ドヘン 又ツチヘン	地坊坡城		妻娶婆	
女ランナヘン	好妙妹姑		孕孝學	
子コヘン	孔孜孤孫		岳島巒	
山ヤマヘン	岬峙峽崎	岩岸嶺	帛席帶	
巾キンベン 又ハバヘン	帆帖帳帽		弩彎	
弓ユミヘン	引弘弛張		志忠惠	
彳ギヤウニンベン (行人偏)	役往待徒		左	
小リツシンベン (立心偏)心ニ同ジ	快性恆情			
工タクミヘン	巧			

附表 部首名稱並用例

偏

用

例

冠  
轉

脚

用  
旁

才 テヘン(手)  
(手偏)

方 カタヘン  
又ハウヘン

日 ヒヘン  
又ニチヘン

月 ツキヘン

木 キヘン

止 トメヘン

歹 カバネヘン(歹)

灬 サンズ(灬)  
(三水)

火 ヒヘン  
ハレン(火)  
グワ(連火)

片 シヤウヘン

片 カタヘン

牛 ウシヘン(牛)

犛 ケモノヘン  
又イヌヘン(犬)

打扶招折

施旅旋族

明映昭晚

朦朧

札村杯松

此歧

死殂殆殊

汗池沙津

炊炳煙燈

牀牆

版牌牒

牝牡牧特

狗狩猶猫

早昇星

杏李

步歲

沓

拳掌掣

旁

昏昔春

有菘

栗案桑

正武歷

灸烈焦

汞泉

牢牽

癸

旭  
朔  
朗  
期

旭

朔朗期

燄

狀獸獻

王 タマヘン(玉)

田 タヘン

白 ハクヘン

目 メヘン

矛 ホコヘン

矢 ヤヘン

石 イシヘン

示 シメスヘン

禾 ノギヘン  
(禾)

立 タツヘン

米 コメヘン  
又ヨネヘン

糸 イトヘン

缶 ホトギヘン

羊 ヒツジヘン

玩珍珠理

町畔略哇

的皎皓

眇眠眼睡

矜稍

知矩短矮

破碎碑礪

社神祿福

秋租稗稻

竝埃端竭

粉粒粗糠

約紅線總

缺罅

羚羝

男界畏

皇

瞿

矣

碁磐磨

祭禁禦

秦稟

豎

栗梁

索累繁

聲

羣

壁壘

畜番當

百皆

盲省瞽

矣

碁磐磨

祭禁禦

秦稟

豎

栗梁

索累繁

聲

羣

相

緜縣

未 又スキヘン 又ライスキ	耳 ミミヘン	月 ニクヅキ(肉) (肉月)	舟 フネヘン	虫 ムシヘン	ネ コロモヘン(衣)	角 ツノヘン	言 ゴンベン	豸 ムジナヘン	貝 カヒヘン 又コガヒ	足 アシヘン	車 クルマヘン	酉 トリヘン 又ヒヨミ(日讀)ドリ
耕 耕耗	耽 聘 聯 聰	股 肘 股 胸	航 船 艘 艦	蚊 蛇 蛤 蝶	袴 裙 補 裾	觚 解 觥 觸	討 論 諭 謙	豺 豹 貂 貌	財 賜 贈 贖	跋 距 路 踰	軋 軒 輔 轉	酌 酬 酸 釀
					裔						轟	
聲 聳 聳	肩 胃 脊	蚤 蜜 螢	衾 袋 裝	犛 犛	誓 警 譽	貢 賣 贊	兪 蹇	軍 輦 輦	會 醫 醬			
			蝕	胡		賴			酒			

金 カネヘン	卩 コザトヘン(小里) (阜偏)	革 カハヘン ツクリカハ	韋 ナメシガハ	食 シヨクヘン 又ジキヘン	馬 ウマヘン	骨 ホネヘン	魚 ウヲヘン
釘 針 鈍 銳	阪 陸 院 陵	鞋 鞍 鞣 鞭	韜 輔 鞞	飢 飯 飽 饋	馭 馳 駿 騎	骸 骼 髑 體	鮒 鮮 鯉 鯨
							魯
釜 鑿 鑿	鞞	養 餐 饗		鯨 駕 駑 驚			
			飧 韓				

リ リツクウ (立刀)	力 リキヅクリ	尸 セツヅクリ 又フシヅクリ 又同ジ	又 マクヅクリ	寸 スンヅクリ
刈 刑 刪 割	功 助 勁 動	印 卻 卽 卿	取 叔 叡	封 射 尉 對
分 券 剪	劣 努 勇	危 卷	受 叟	寺 專 尊 尋
	加			

附表 部首名稱並用例

シ	ケカザリ	用	形彩彫彰	冠	轉	彦	夏	斧	登	翁	肇	雀	六
戈	ホコヅクリ	例	戎戒戕戰										
支	ボクヅクリ(又)		收改攻斂										
斤	フノヅクリ		斬斯新斷										
欠	ケンヅクリ		次欣欲歎										
爻	又ツハモノヅクリ		段股殺毀										
瓦	カハラヅクリ		甗瓶甌										
皮	カハヅクリ		皴皴										
羽	ハネヅクリ		翔翮翺翻										
聿	フデヅク		肆										
卩	オホザト(大里)		邦郊郡都										
佳	フルトリ(舊鳥)		雄雉雞離										
頁	オホガヒ(大貝)		頂項頭顯										

六  
用  
偏

鳥	トリヅクリ	用	鳴鴻鶴鷗	旁	轉	鷹	鳶	缺	七
龜	カメヅクリ	例							
一	ケイサン(卦算)		亢交京亭						
入	イリガシラ		内全兪						
八	ハチガシラ		公兮兼						
冫	ワカナムリ		冠冥冤冢						
冫	又ヒラカムリ		厄厓厚厭						
大	ダイカムリ		夸奇奈奮						
宀	ウカムリ		宇安定家						
小	セウカムリ		少尖尙						
尸	シカバネダレ		尾居履屬						
广	マダレ		庇店座廟						
彡	ケイガシラ(彡)		豕彘彘						

附表  
部首名稱並用例

七

冠

用

例

旁  
轉

脚

用  
偏

八

戸 トダレ  
又トカシムリ

气 キガマヘ

爪 ツメガシラ  
又サウネウ

疒 ヤマヒダレ

𦘒 ハツガシラ(發頭)

穴 アナカムリ

竹 タケカムリ

𦘒 アミガシラ(罔)

𦘒 オイカムリ(老)

𦘒 サウカウ(艸)

𦘒 トラガシラ(虎頭)

雨 アメカムリ

𦘒 カミガシラ(髮頭)

房 扇 扉

氛 氣 氤 氳

爭 爲 爵

疲 疲 病 痛

癸 登 發

究 空 穿 窟

竿 笠 筆 簡

𦘒 罪 罰 羅

老 耄 耆 耄

芋 芹 茶 葉

虎 虐 虛 虜

雪 雲 雷 霜

髭 髮 髻 鬚

所

爬

脚

用

例

冠  
轉

偏

用  
旁

𦘒 エンネウ(延纏)

走 ソウネウ

𦘒 シンネウ(寔  
之繞ノ音便)

鬼 キネウ

麥 バクネウ

延 延 建 廻

赴 越 趣 趨

近 追 進 運

魁 魁 魁 魁

麩 麩

魂 魄 魏

構

用

例

𦘒 ケイガマヘ

𦘒 カンガマヘ

𦘒 ハウガマヘ  
又ツツミガマヘ

𦘒 ハコガマヘ

𦘒 カクシガマヘ

𦘒 クニガマヘ

行 ユキガマヘ  
又ギヤウガマヘ

冒 冕

凶 凹 函

勺 勿 包 匈

匠 匡 匣 匱

匹 區 匱 區

囚 因 圃 園

衍 術 街 衛

附表 部首名稱並用例

九

發行所

東京市神田區錦町一丁目  
振替貯金口座東京四九九一番

株式會社 明治書院

電話神田(25)二一四七番(3)



印刷所

東京市神田區小川町一丁目十一番地  
宮本印刷所  
印刷者 綾部喜久二

發行者

株式會社 明治書院  
取締役社長 三樹退三

編者

簡野道明

昭和十二年七月十四日印刷  
昭和十二年七月二十日發行  
昭和十二年十二月七日訂正印刷  
昭和十二年十二月十一日訂正發行

新修漢文入門(新制版)

定價金參拾五錢

田中明

構	用	例
乙 オツネウ(乙纏) 儿 ニンネウ(人纏) 几 キネウ 夕 ユフベ 支 エダ 又 シネウ 文 プレネウ 斗 トマス 日 イハク 又 ヒラビ(平日) 毛 ケ 瓜 ウリ 皿 サラ	閉閣關 閉閣關 外 斌 毬	門 カドガマへ 又 モンガマへ 門 タカヒガマへ 雜 偏 旁 冠 脚
乳乾亂 処凱 夜 敬 斛斟 甗甗 瓠瓢	外 斌 毬	旁 冠 脚
乞 兀元兄光 憑 夢 斐 學 書會會 毫 益盛盡	多 曼最 毬	冠 脚



孝子  
既澁  
所損  
益丁  
不蔽  
簡在  
華心  
朕  
不  
心爲  
所而  
民  
歲  
不  
其  
理  
儼